

# 漂流・漂着ゴミに係る国内削減方策モデル調査

## 熊本県地域検討会報告書(案)

### 第 章 資料編

## 目 次

### 第 章 資料編

1. 調査の概要 .....	2
1.1 地点別・季節別の変化(量) .....	2
1.1.1 樋島海岸 .....	2
1.1.2 富岡海岸 .....	9
1.2 地点ごとの集計結果 .....	14
1.2.1 樋島海岸 .....	14
1.2.2 富岡海岸 .....	29

## 第 章 資料編

### 1. 調査の概要

#### 1.1 地点別・季節別の変化（量）

##### 1.1.1 樋島海岸

第1～5回クリーンアップ調査において回収した漂着ゴミの重量(kg/100 m<sup>2</sup>)を図 1.1-1 に、容量(L/100 m<sup>2</sup>)を図 1.1-2 に示す。

第1回クリーンアップ調査結果は、それまでに蓄積した漂着ゴミの累計値と考えられる。一方、第2～5回クリーンアップ調査結果については、前回のクリーンアップ調査終了時から当該回のクリーンアップ調査時まで新たに漂着したゴミであると考えられる。

全ての地点で重量、容量ともに第1回調査(2007年10月)が最も多く、各調査においては地点5が最も多かった。漂着したゴミの大部分は自然系の流木、灌木であった。

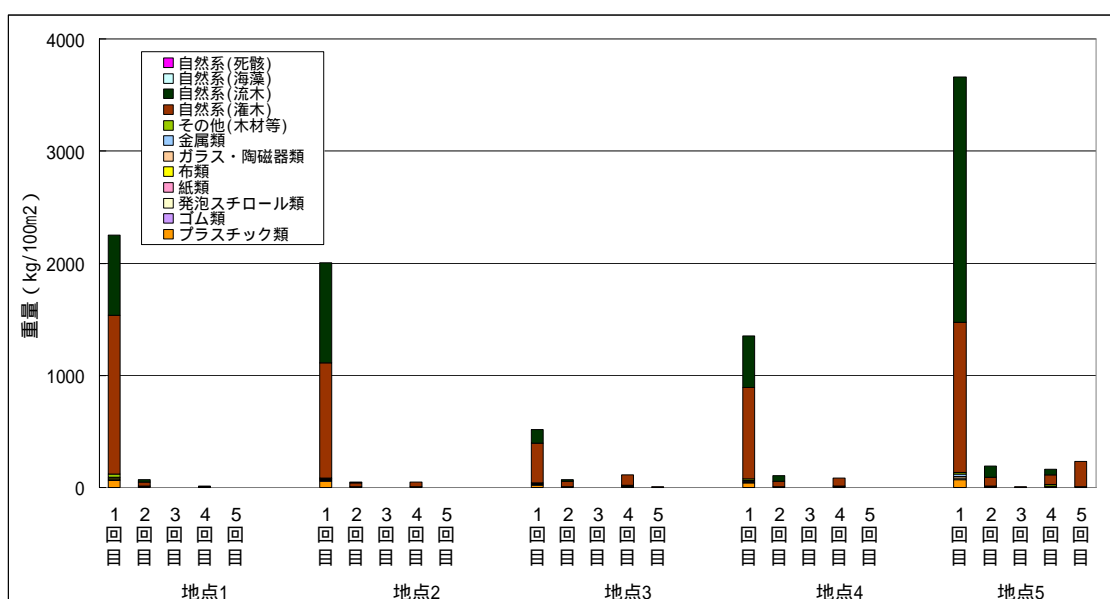


図 1.1-1 共通調査において回収したゴミ重量（第1～5回）

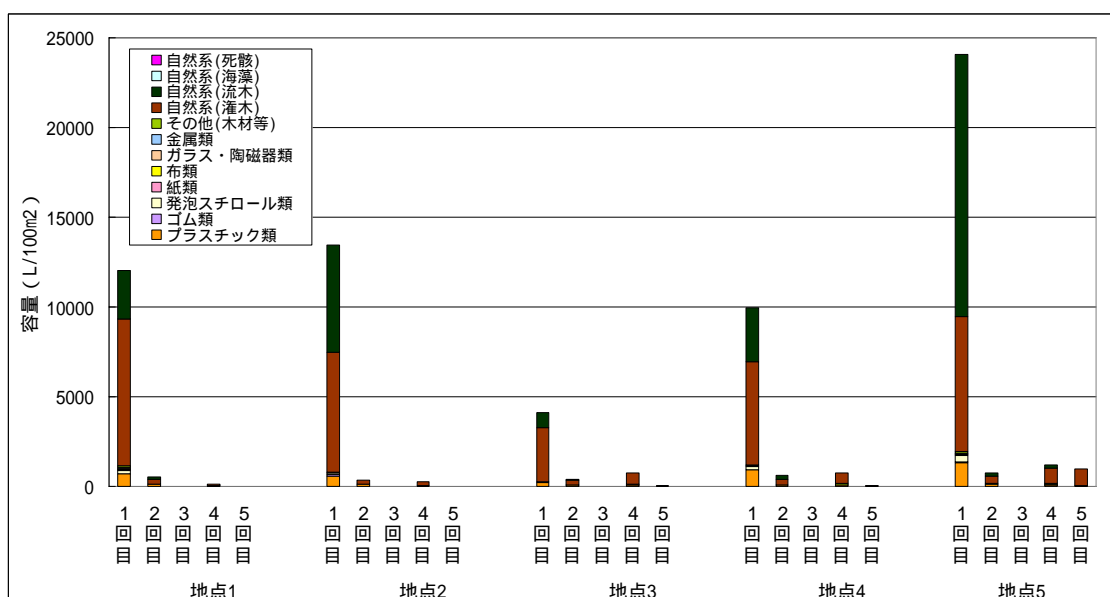


図 1.1-2 共通調査において回収したゴミ容量（第1～5回）

前述したとおり、クリーンアップ調査期間中に漂着したゴミの量を比較するために第2～5回クリーンアップ調査結果で回収した漂着ゴミの重量 (kg/100 m<sup>2</sup>) を図 1.1-3 に、容量 (L/100 m<sup>2</sup>) を図 1.1-4 に示す。

地点5で第5回調査(2008年8月)が最も多かったのを除き、全ての地点で重量、容量ともに第3回調査(2008年2月)と第5回調査(2008年8月)が少なかった。

第3回調査(2008年2月)を除き、毎回漂着するゴミの量は重量・容量ともに地点5が多く、重量で最も多かったのは第5回調査(2008年8月)の230 kg/100 m<sup>2</sup>、容量で最も多かったのは第4回調査(2008年5月)の1130 L/100 m<sup>2</sup>であった。重量、容量ともに大部分は流木、灌木であった。

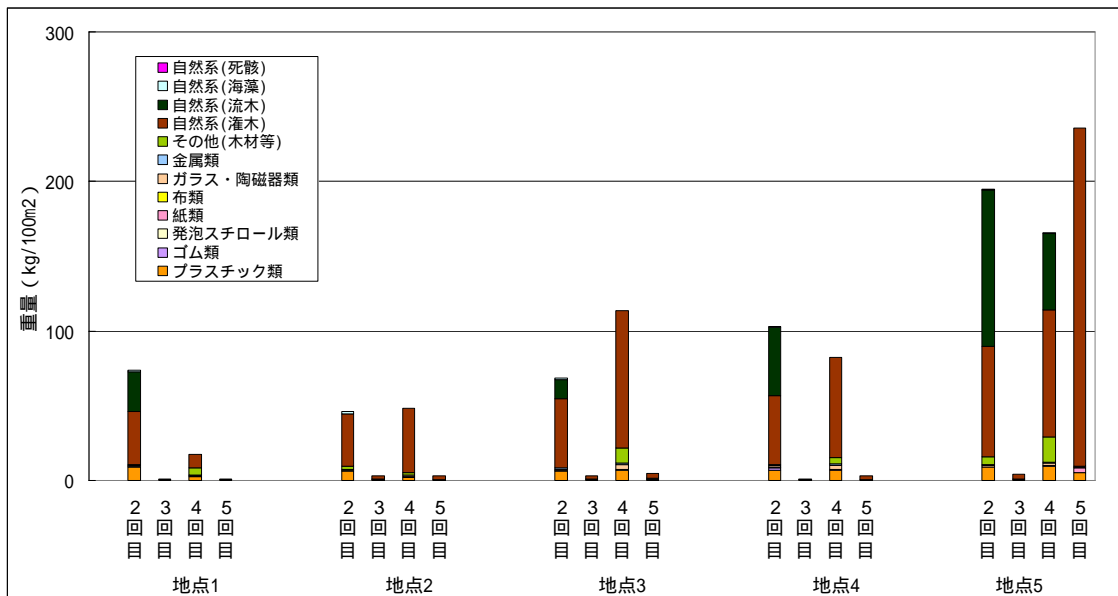


図 1.1-3 共通調査において回収したゴミ重量 (第2～5回)

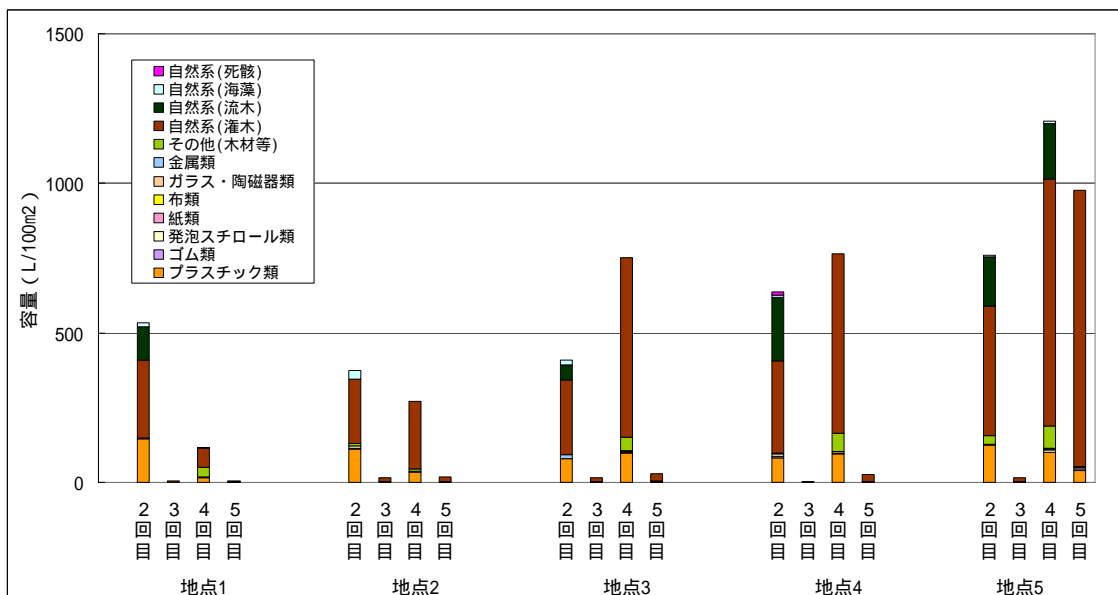


図 1.1-4 共通調査において回収したゴミ容量 (第2～5回)

次に、自然系である流木・灌木、海藻を除いた漂着ゴミの重量 (kg/100 m<sup>2</sup>) を図 1.1-5 に、容量 (L/100 m<sup>2</sup>) を図 1.1-6 に示す。

これまでと同様に、全ての地点で重量、容量ともに第 1 回調査 (2007 年 10 月) が最も多く、地点 5 が最も多かった。人工物の中では、重量、容量ともにプラスチック類の割合が最も多かった。次いで、重量ではガラス・陶磁器類、容量では発泡スチロール類が多かった。

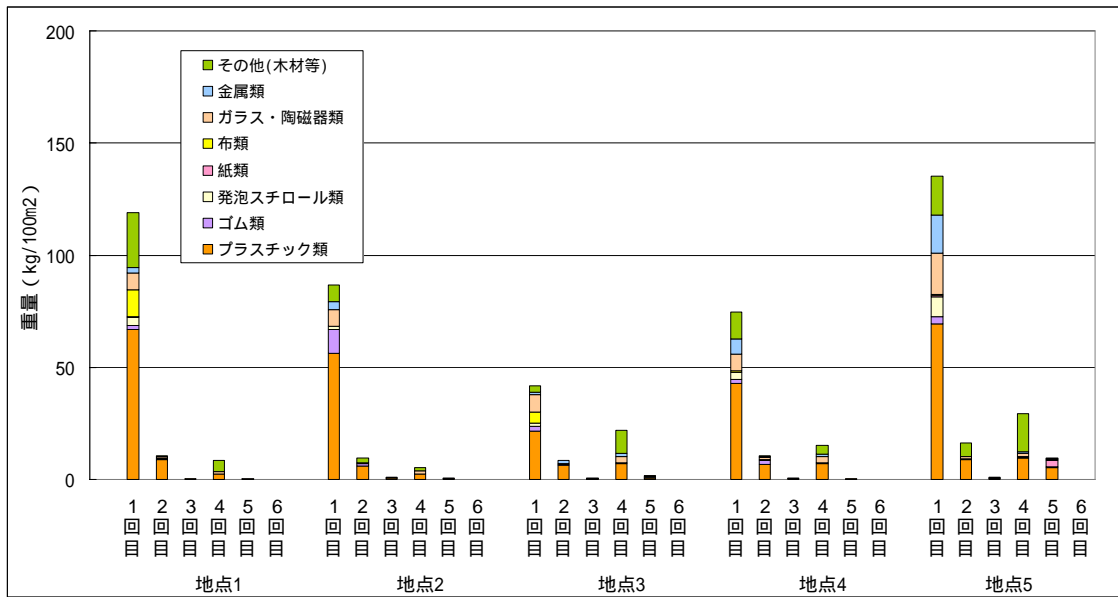


図 1.1-5 共通調査において回収したゴミ重量 (第 1~5 回 : 海藻、流木・灌木を除く)

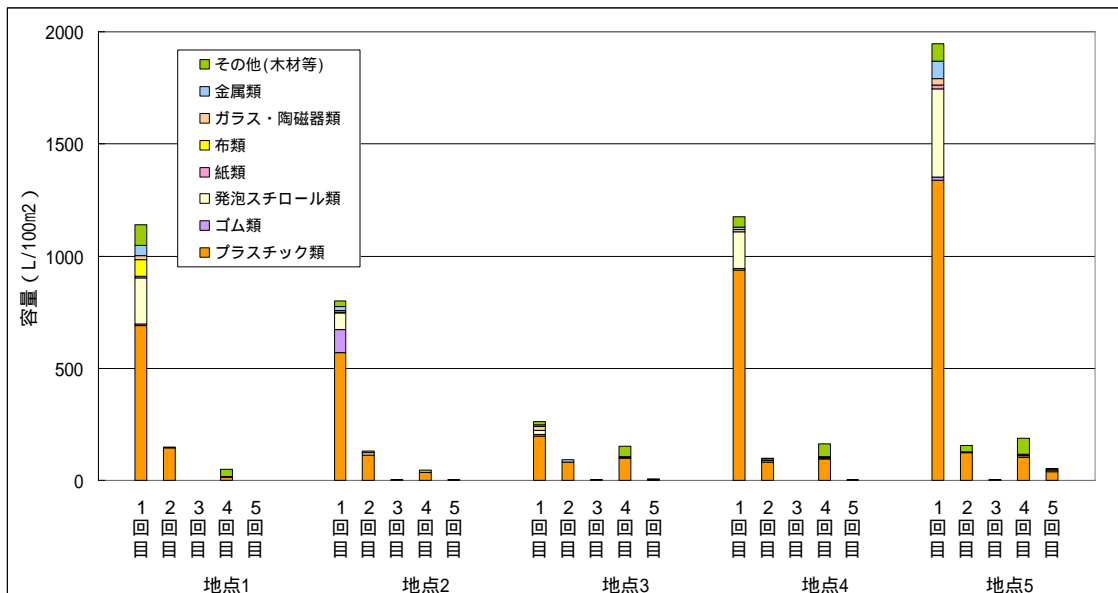


図 1.1-6 共通調査において回収したゴミ容量 (第 1~5 回 : 海藻、流木・灌木を除く)

第2～5回クリーンアップ調査結果で回収した漂着ゴミで流木・灌木、海藻を除いたものの重量 (kg/100 m<sup>2</sup>) を図 1.1-7 に、容量 (L/100 m<sup>2</sup>) を図 1.1-8 に示す。

重量では全ての地点でその他の人工物、もしくはプラスチック類が多かった。容量ではプラスチック類が最も多く、次いでその他の人工物が多かった。

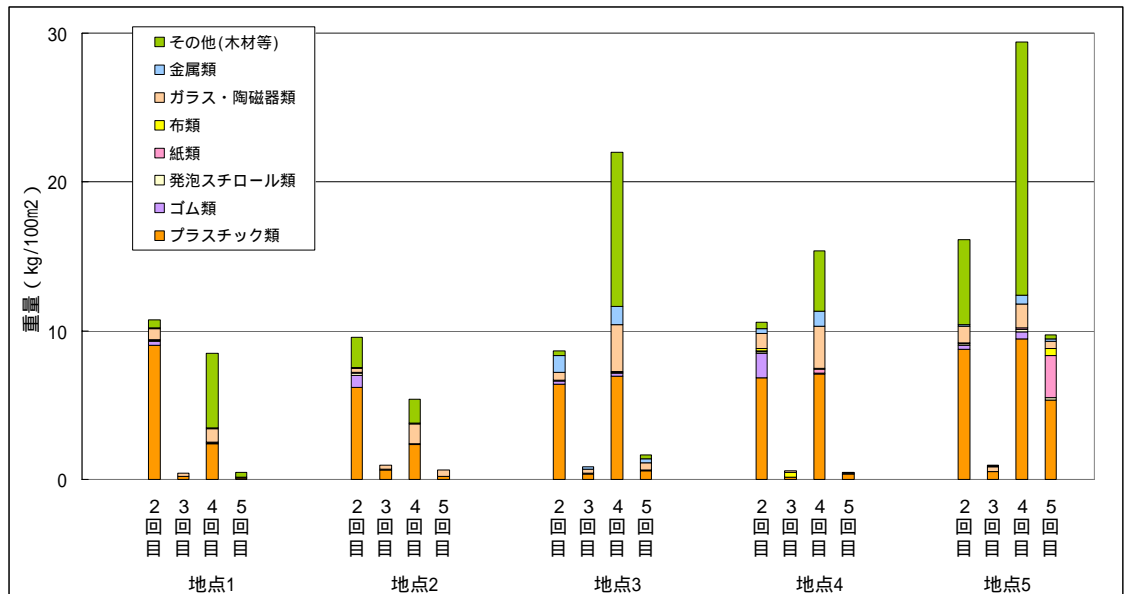


図 1.1-7 共通調査において回収したゴミ重量 (第2～5回：海藻、流木・灌木を除く)

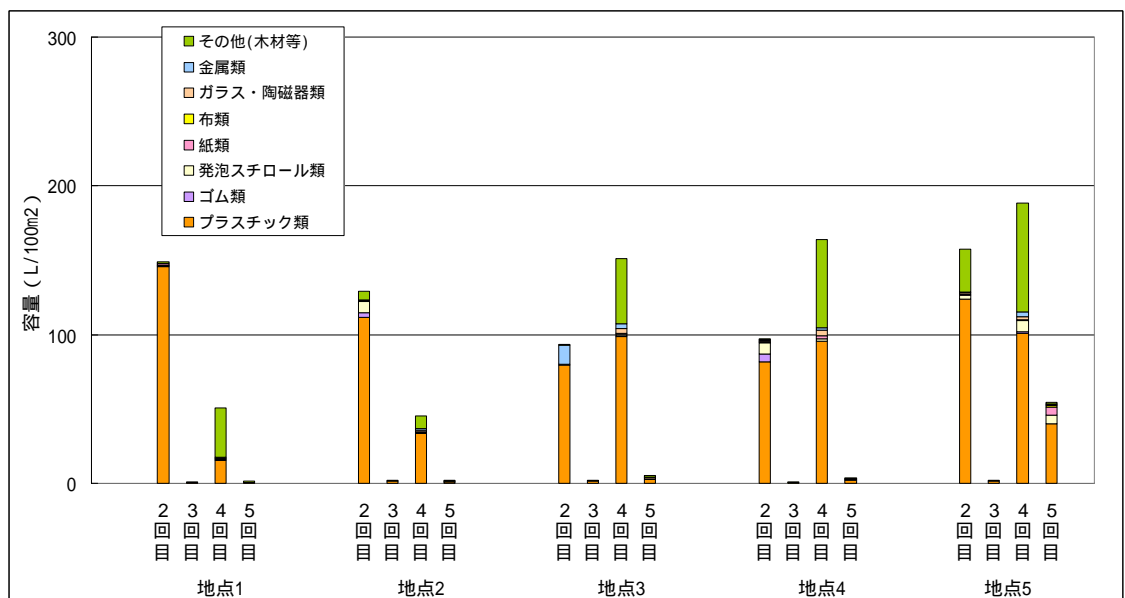


図 1.1-8 共通調査において回収したゴミ容量 (第2～5回：海藻、流木・灌木を除く)

さらに第1回から第5回の漂着ゴミの個数(個/100m<sup>2</sup>)を図1.1-9に、第2回から第5回の値を図1.1-10に示す。海藻、灌木は個数を計数できないため人工物のみの個数で表現してある。

全ての地点で第1回調査(2007年10月)の個数が最も多く、地点5が最も多かった。種類別では、発泡スチロールが最も多く、次いでプラスチック類が多かった。

第2回(2007年12月)~第5回(2008年5月)では、プラスチック類が最も多く、次いで発泡スチロール、その他の人工物が多かった。

これらの結果から特に発泡スチロール類については、第1回調査で最も多く、それまでに蓄積されたゴミに多く含まれることから、漂着後時間経過とともに劣化・細分化し、それが海岸に溜まっていったものと推察された。

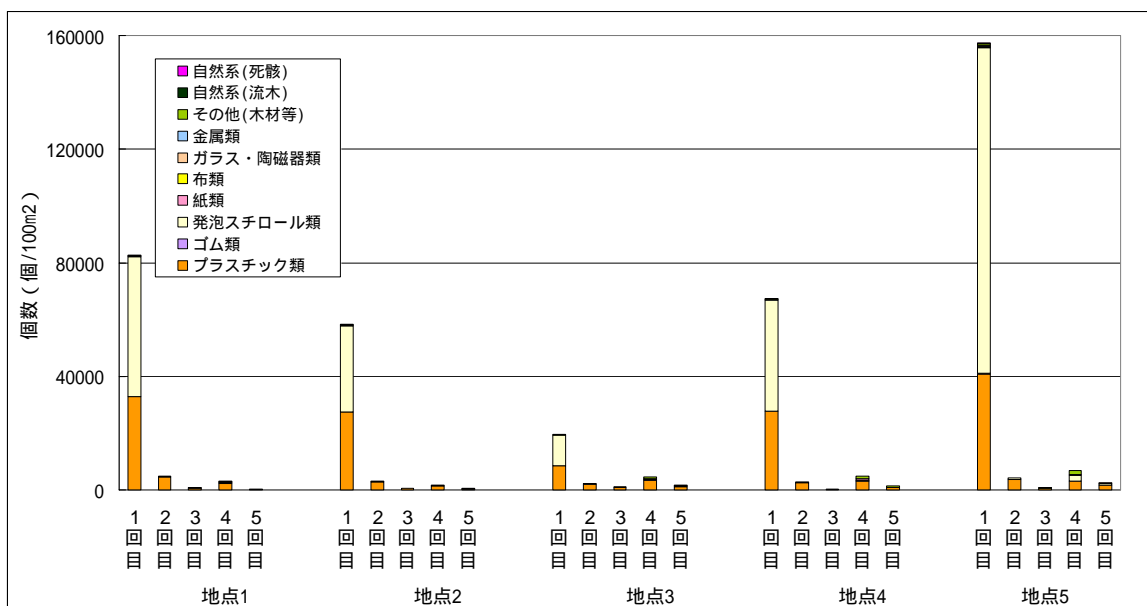


図 1.1-9 共通調査において回収したゴミ個数(第1~5回)

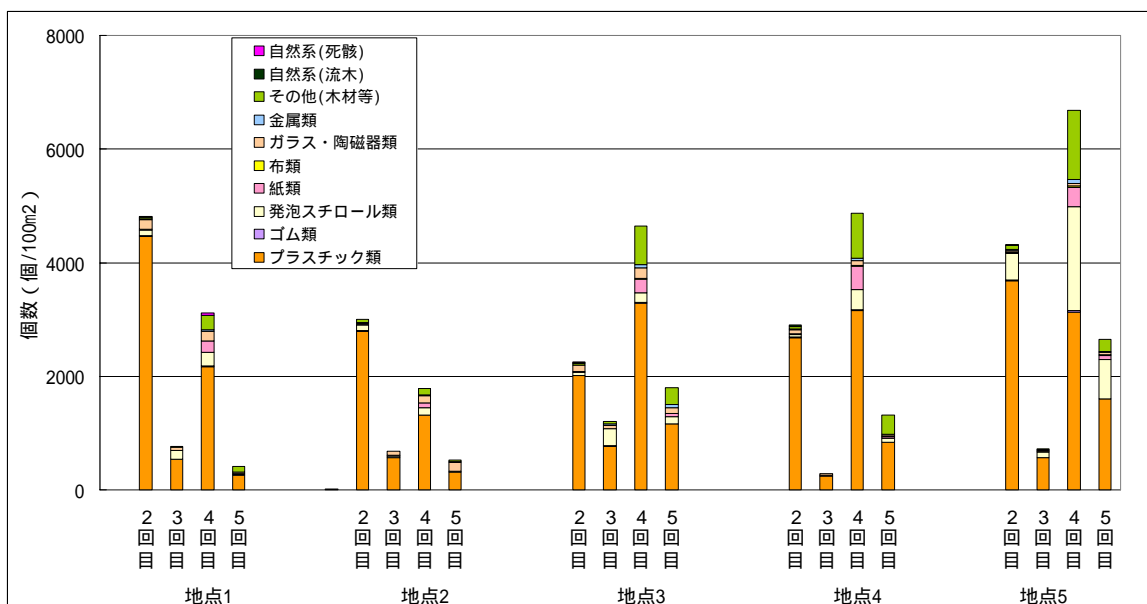




図 1.1-10 共通調査において回収したゴミ个数（第2～5回）

### 1.1.2 富岡海岸

第1回クリーンアップ調査結果は今までに蓄積した漂着ゴミの累計であるが、第2～6回クリーンアップ調査結果は、前回のクリーンアップ調査終了時から当該回のクリーンアップ調査時まで新たに漂着したゴミであると考えられる。第1～6回クリーンアップ調査において回収した漂着ゴミの重量(kg/100m<sup>2</sup>)を図1.1-11に、容量(L/100m<sup>2</sup>)を図1.1-12に示す。

全ての測点で重量、容量ともに第1回調査(2007年10月)が最も多く、第5回調査(2008年8月)から第6回調査(2008年10月)にかけて増える傾向がみられた。

測点別では地点2および3が多かった。漂着ゴミの大部分は流木、灌木であった。

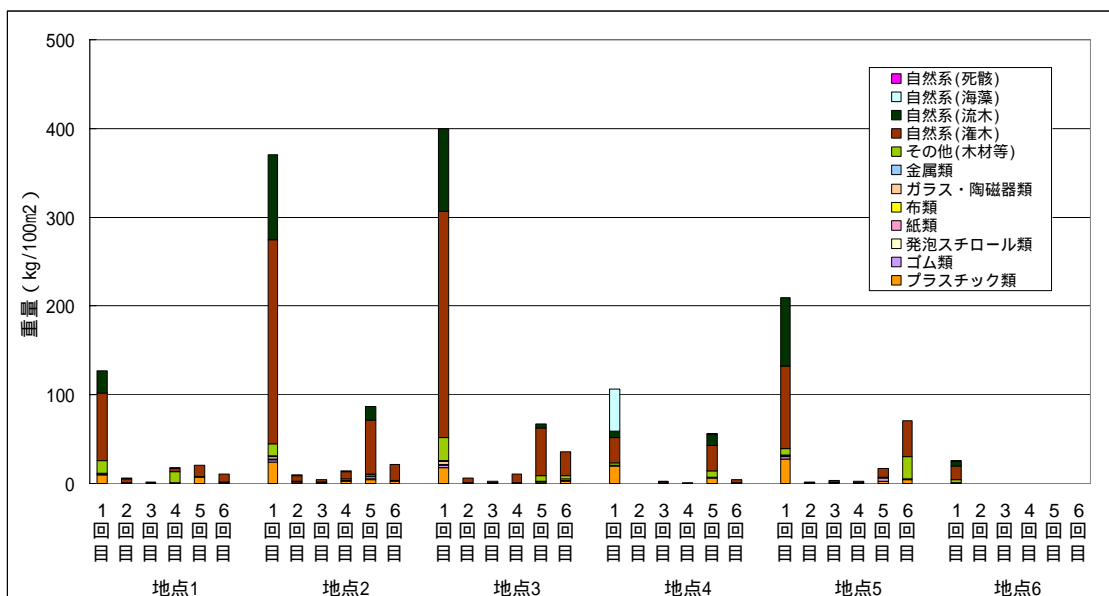


図 1.1-11 共通調査において回収したゴミ重量 (第1～6回)

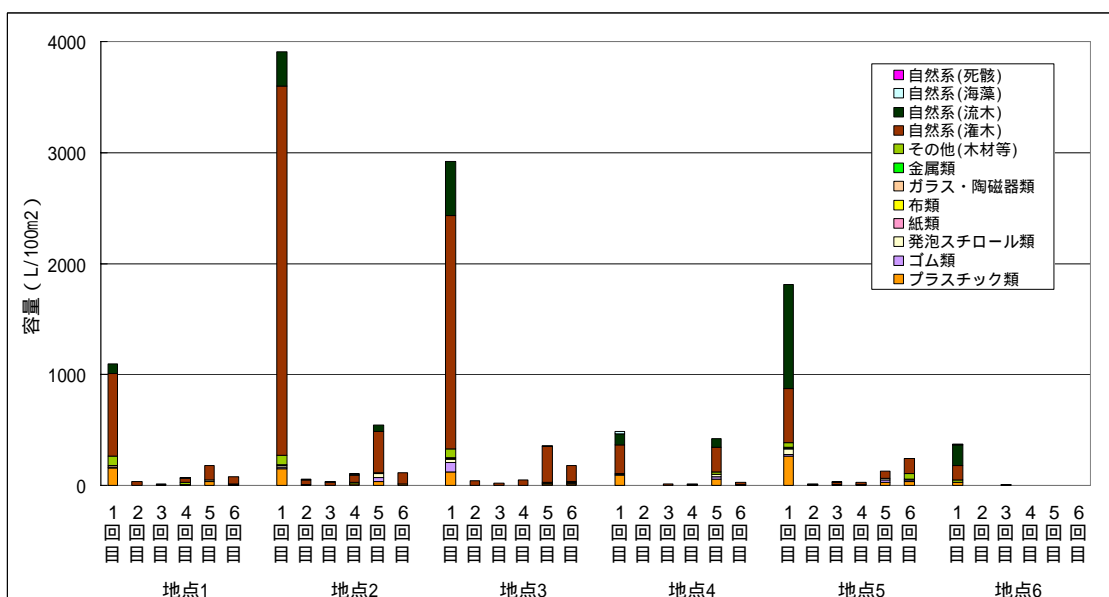


図 1.1-12 共通調査において回収したゴミ容量 (第1～6回)

前述したとおり、クリーンアップ調査期間中に漂着したゴミの量を比較するために第2～5回クリーンアップ調査結果で回収した漂着ゴミの重量 (kg/100 m<sup>2</sup>) を図 1.1-13 に、容量 (L/100 m<sup>2</sup>) を図 1.1-14 に示す。

地点5で第6回目(2008年10月)が最大(重量約70kg/100 m<sup>2</sup>、容量約230L/100 m<sup>2</sup>)になっているのを除き、全ての測点で重量、容量ともに第5回目調査(2008年8月)が最も多かった。最大は地点2の重量約90kg/100 m<sup>2</sup>、容量約550 L/100 m<sup>2</sup>であった。重量、容量ともに大部分は流木、灌木であったが、それ以外では、重量ではその他の人工物、容量ではプラスチック類が多かった。

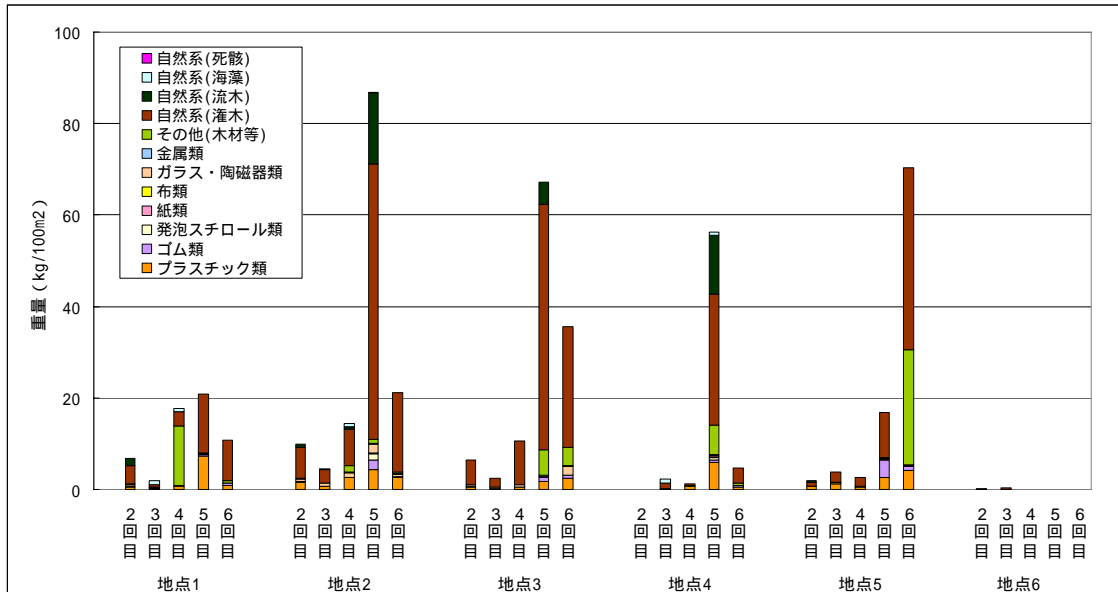


図 1.1-13 共通調査において回収したゴミ重量(第2～6回)

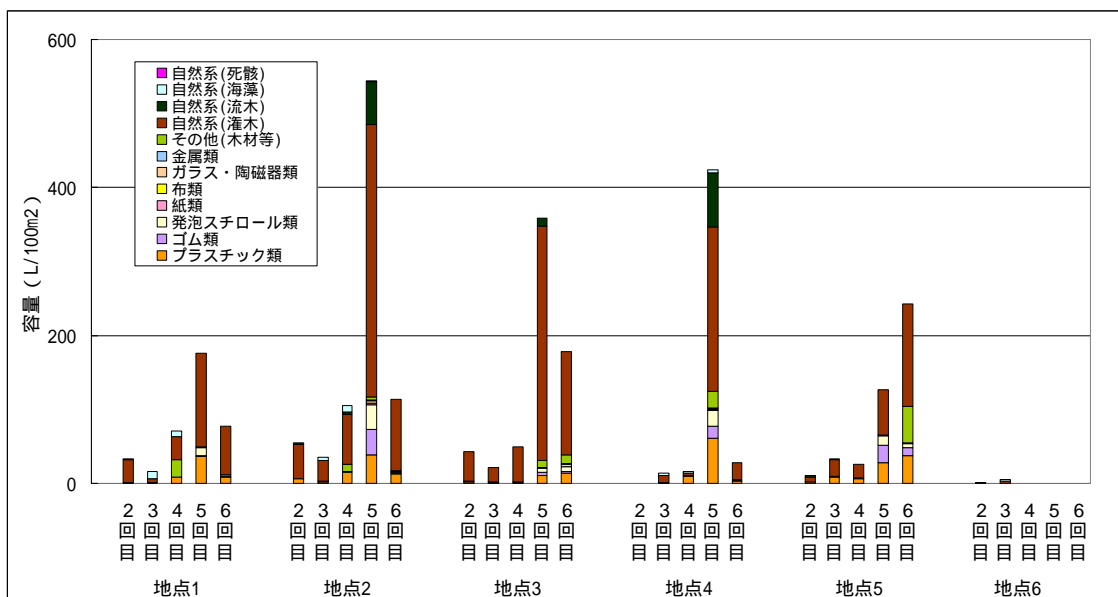


図 1.1-14 共通調査において回収したゴミ容量(第2～6回)

次に、自然系である流木・灌木、海藻を除いた漂着ゴミの重量 (kg/100 m<sup>2</sup>) を図 1.1-5

に、容量 (L/100 m<sup>2</sup>) を図 1.1-6 に示す。

これまでと同様に、全ての測点で重量、容量ともに第 1 回目調査 (2007 年 10 月) が最も多く、重量では地点 3 (約 50kg kg/100 m<sup>2</sup>)、容量では地点 5 (約 380 L/100 m<sup>2</sup>) が最も多かった。人工物の中では、重量、容量ともにプラスチック類もしくはその他の人工物の割合が最も多く、次いで、重量ではガラス・陶磁器類、容量では発泡スチロール類が多かった。

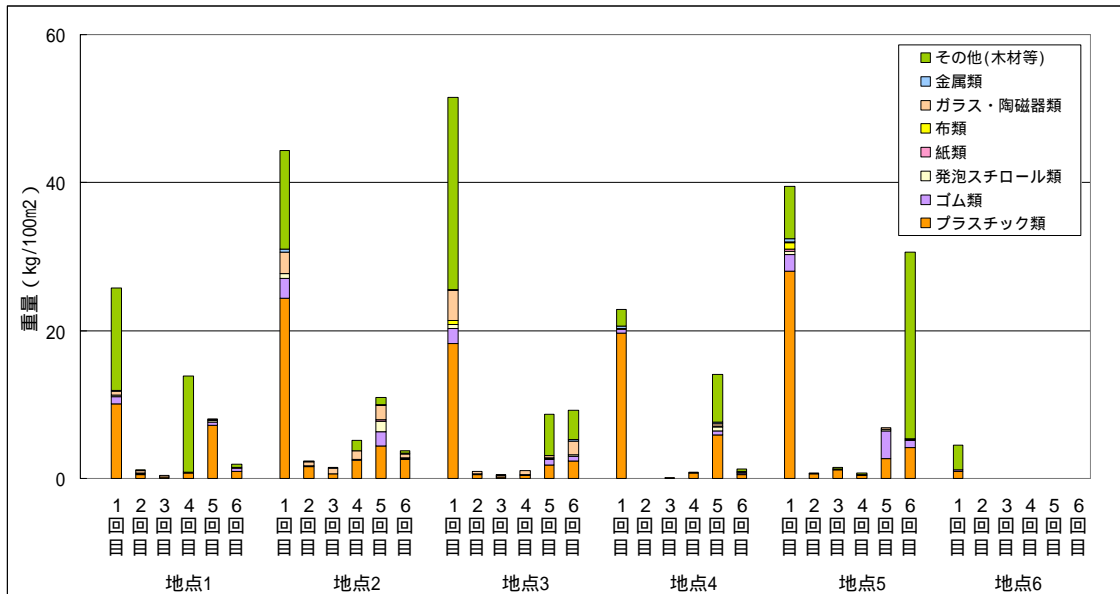


図 1.1-15 共通調査において回収したゴミ重量 (第 1~6 回: 海藻、流木・灌木を除く)

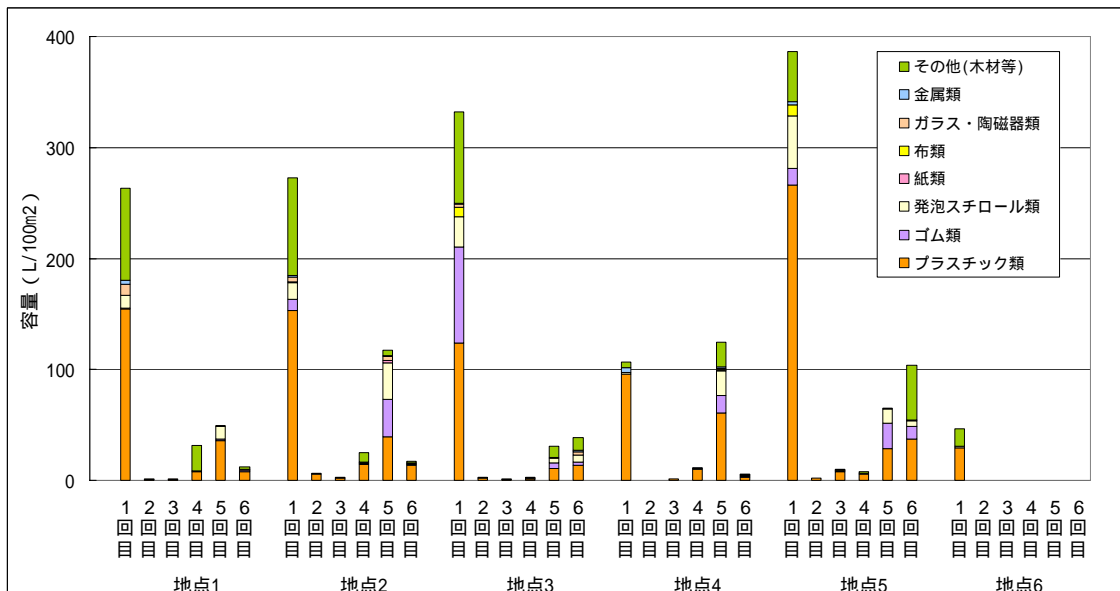


図 1.1-16 共通調査において回収したゴミ容量 (第 1~6 回: 海藻、流木・灌木を除く)

第2～5回クリーンアップ調査結果で回収した漂着ゴミで流木・灌木、海藻を除いたものの重量 (kg/100 m<sup>2</sup>) を図 1.1-17 に、容量 (L/100 m<sup>2</sup>) を図 1.1-18 に示す。全ての地点で第4回目 (2008年5月) 以後、重量、容量ともに増加する傾向がうかがえた。重量ではその他の人工物、次いでプラスチック類が多かった。容量ではプラスチック類、発泡スチロール類、その他の人工物が多かった。

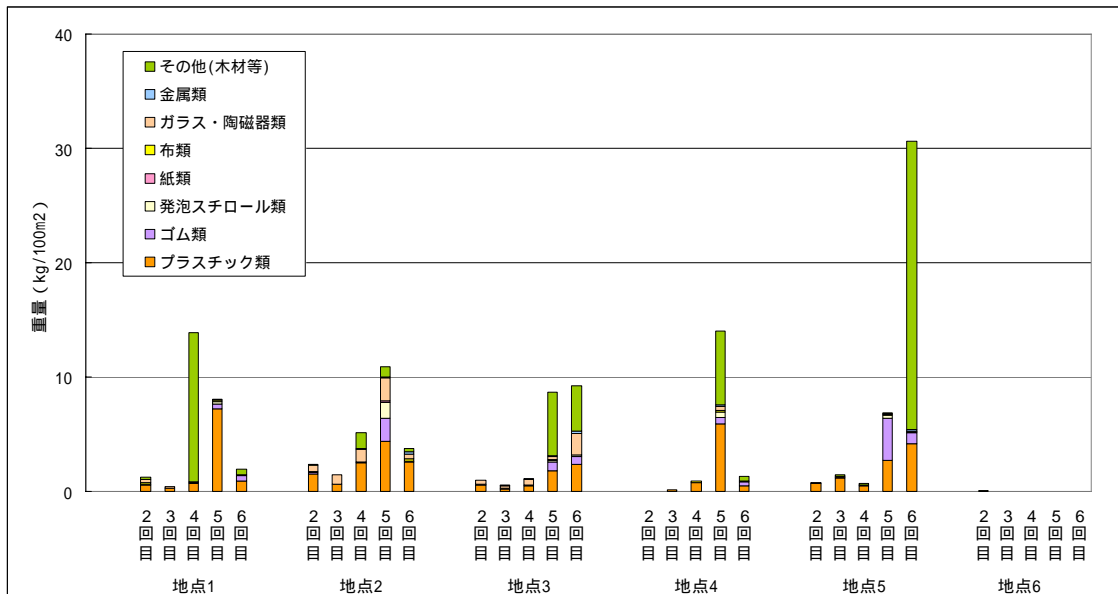


図 1.1-17 共通調査において回収したゴミ重量 (第2～6回：海藻、流木・灌木を除く)

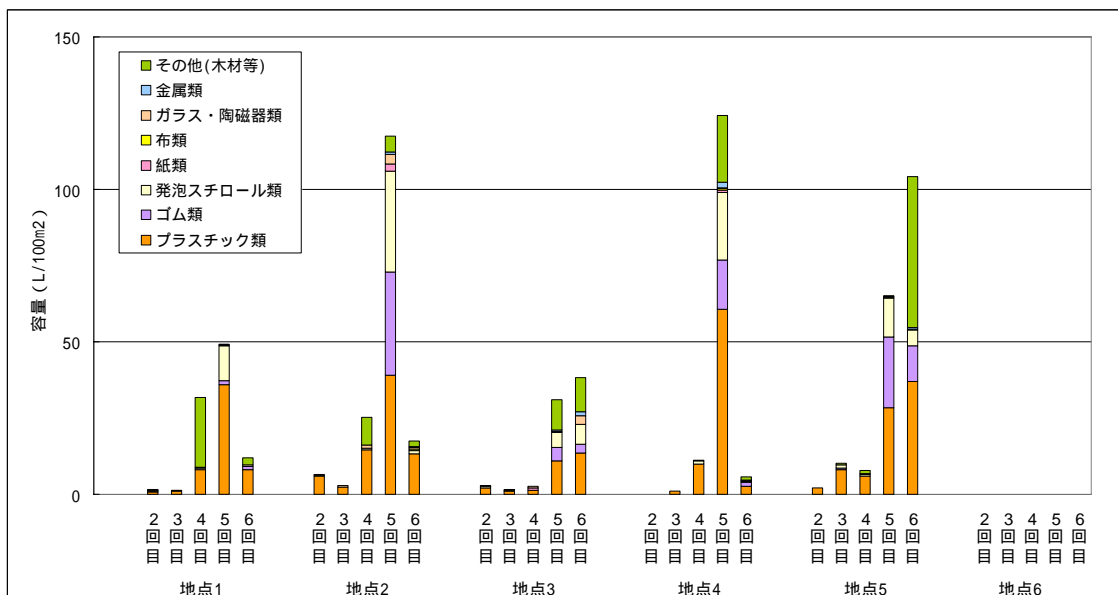


図 1.1-18 共通調査において回収したゴミ容量 (第2～6回：海藻、流木・灌木を除く)

さらに漂着ゴミの個数 (個/100 m<sup>2</sup>) を図 1.1-9 に、第2回目から第5回目の値を図 1.1-20 に示す。海藻、灌木は個数を計数できないため人工物のみの個数で表現してある。

全ての測点で第1回目調査 (2007年10月) の個数が最も多く、地点2が最も多かった。プラスチック類が最も多く、次いで発泡スチロールが多かった。

第2回回目（2007年12月）～第5回目（2008年5月）も同様の傾向であった。

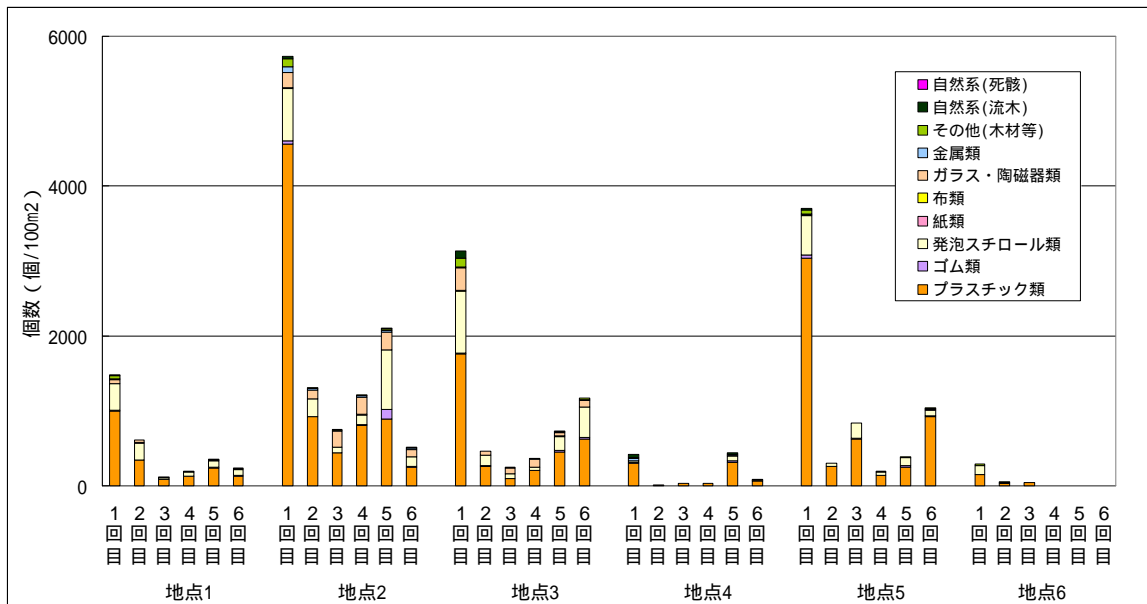


図 1.1-19 共通調査において回収したゴミ個数（第1～6回）

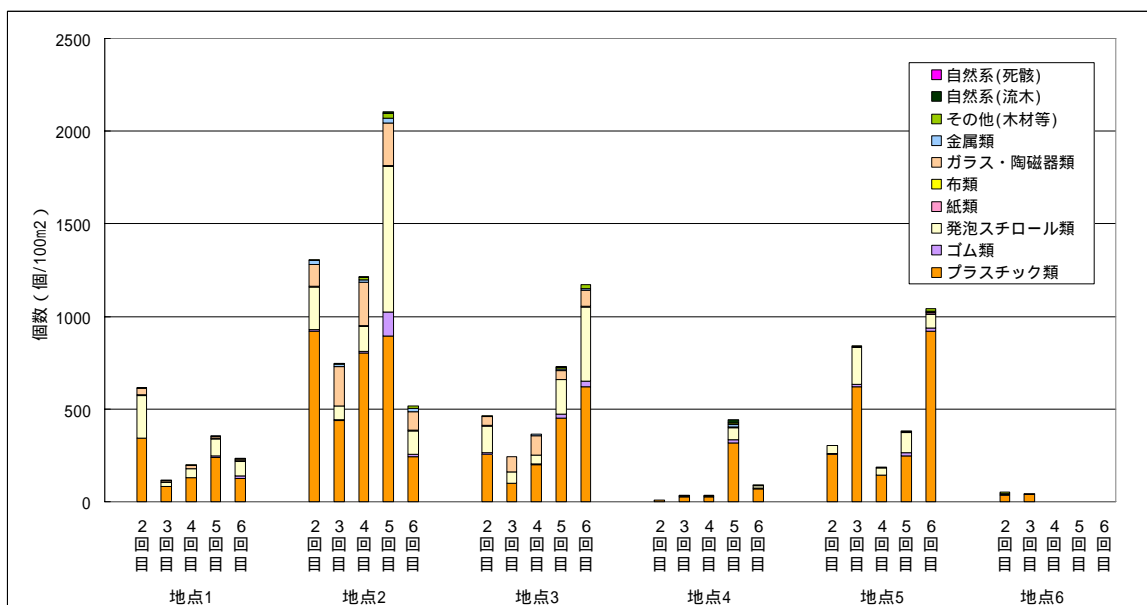


図 1.1-20 共通調査において回収したゴミ個数（第2～6回）

## 1.2 地点ごとの集計結果

### 1.2.1 樋島海岸

第 2～5 回クリーンアップ調査の共通調査において回収された漂着ゴミを大分類ごとに集計し、全量、海藻を除いたもの、及び自然系（流木・灌木・海藻）を除いたもの、3通りのグラフを作成した。

各調査の実施年月は以下のとおりである。

第 1 回：2007 年 10 月

第 2 回：2007 年 12 月

第 3 回：2008 年 2 月

第 4 回：2008 年 5 月

第 5 回：2008 年 8 月

#### (1) 地点 1

地点 1 の調査時期別の枠内重量比率および容量比率を図 1.2-1、図 1.2-2 に示す。

全量についてみると、調査時期別の漂着ゴミの重量及び容量の範囲はそれぞれ、1.0kg/100 m<sup>2</sup>（2008 年 2 月）～73.9 kg/100 m<sup>2</sup>（2007 年 12 月）、4.3L/100 m<sup>2</sup>（2008 年 2 月）～116.0L/100 m<sup>2</sup>（2007 年 12 月）であった。

各調査時期で重量、容量ともに自然系（灌木）の比率が最も高く、それぞれ 49%（2007 年 12 月）～57%（2008 年 2 月）、49%（2007 年 12 月）～85%（2008 年 2 月）の範囲であった。それ以外では、自然系（流木）が 2008 年 12 月に多い以外は人工物のプラスチック類、その他の人工物、ガラス・陶磁器類が比較的多く、人工物のみで見た場合の枠内重量比率および容量比率の範囲は、プラスチック類では重量比率が 19%（2008 年 8 月）～83%（2007 年 12 月）、容量比率が 30%（2008 年 5 月）～98%（2007 年 12 月）、その他の人工物は重量比率が 2%（2008 年 2 月）～62%（2008 年 8 月）、容量比率が 3%（2008 年 2 月）～67%（2008 年 5 月）、ガラス・陶磁器類は重量比率が 7%（2007 年 12 月）～45%（2008 年 2 月）、容量比率が 0%（2007 年 12 月）～7%（2008 年 2 月と 8 月）であった。

	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	合計(第2~5回)
集計重量 (全量)					調査せず	
集計重量 (海藻を除く)					調査せず	
集計重量 (流木・灌木、海藻を除く)					調査せず	

凡例

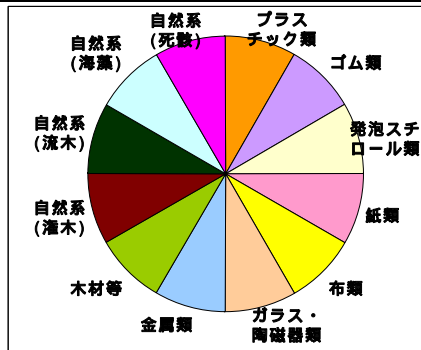


図 1.2-1 重量比率(地点1)



	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	合計(第2~5回)
集計容量 (全量)					調査せず	
集計容量 (海藻を除く)					調査せず	
集計容量 (流木・灌木、 海藻を除く)					調査せず	

凡例

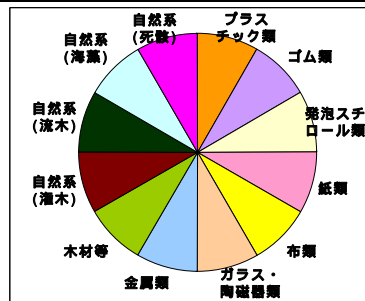


図 1.2-2 容量比率(地点1)

## (2) 地点 2

地点 2 の調査時期別の枠内重量比率および容量比率を図 1.2-3、図 1.2-4 に示す。

全量についてみると、調査時期別の漂着ゴミの重量及び容量の範囲はそれぞれ、 $3.2\text{kg}/100\text{ m}^2$  (2008 年 8 月) ~  $48.4\text{ kg}/100\text{ m}^2$  (2008 年 5 月)、 $15.4\text{L}/100\text{ m}^2$  (2008 年 2 月) ~  $374.3\text{L}/100\text{ m}^2$  (2007 年 12 月) であった。

各調査時期で重量、容量ともに自然系(灌木)の比率が最も高く、それぞれ 71% (2008 年 2 月) ~ 89% (2008 年 5 月)、57% (2007 年 12 月) ~ 88% (2008 年 2 月と 5 月) の範囲であった。それ以外では、人工物のプラスチック類、その他の人工物、ガラス・陶磁器類が比較的多く、人工物のみで見た場合の枠内重量比率および容量比率の範囲は、プラスチック類では重量比率が 30% (2008 年 8 月) ~ 65% (2007 年 12 月と 2008 年 2 月)、容量比率が 46% (2008 年 8 月) ~ 89% (2008 年 2 月)、その他の人工物では重量比率が 0% (2008 年 2 月) ~ 30% (2008 年 5 月)、容量比率が 0% (2008 年 2 月) ~ 26% (2008 年 8 月)、ガラス・陶磁器類では重量比率が 3% (2008 年 2 月) ~ 30% (2008 年 5 月)、容量比率が 0% (2007 年 12 月) ~ 26% (2008 年 8 月) であった。

	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	合計(第2~5回)
集計重量 (全量)					調査せず	
集計重量 (海藻を除く)					調査せず	
集計重量 (流木・灌木、 海藻を除く)					調査せず	

凡例

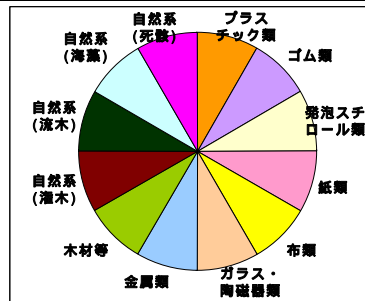


図 1.2-3 重量比率(地点2)

	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	合計(第2~5回)
集計容量 (全量)					調査せず	
集計容量 (海藻を除く)					調査せず	
集計容量 (流木・灌木、 海藻を除く)					調査せず	

凡例

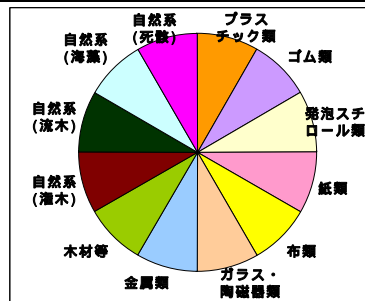


図 1.2-4 容量比率(地点2)

### (3) 地点 3

地点 3 の調査時期別の枠内重量比率および容量比率を図 1.2-5、図 1.2-6 に示す。

全量についてみると、調査時期別の漂着ゴミの重量及び容量の範囲はそれぞれ、 $3.2\text{kg}/100\text{ m}^2$  (2008 年 2 月) ~  $113.4\text{ kg}/100\text{ m}^2$  (2008 年 5 月)、 $16.3\text{L}/100\text{ m}^2$  (2008 年 2 月) ~  $752.0\text{L}/100\text{ m}^2$  (2008 年 5 月) であった。

各調査時期で重量、容量ともに自然系(灌木)の比率が最も高く、それぞれ 65% (2008 年 8 月) ~ 81% (2008 年 5 月)、61% (2007 年 12 月) ~ 88% (2008 年 2 月) の範囲であった。それ以外では、人工物のプラスチック類、金属類、その他の人工物、ガラス・陶磁器類が比較的多く、人工物のみで見た場合の枠内重量比率および容量比率の範囲は、プラスチック類では重量比率が 32% (2008 年 5 月) ~ 74% (2007 年 12 月)、容量比率が 48% (2008 年 8 月) ~ 86% (2008 年 2 月)、金属類では重量比率が 6% (2007 年 12 月) ~ 31% (2008 年 8 月)、容量比率が 2% (2008 年 5 月) ~ 13% (2007 年 12 月)、その他の人工物では重量比率が 3% (2007 年 12 月) ~ 48% (2008 年 5 月)、容量比率が 1% (2007 年 12 月) ~ 29% (2008 年 5 月)、ガラス・陶磁器類では重量比率が 6% (2007 年 12 月) ~ 31% (2008 年 8 月)、容量比率が 0% (2007 年 12 月) ~ 10% (2008 年 8 月) であった。

	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	合計(第2~5回)
集計重量 (全量)					調査せず	
集計重量 (海藻を除く)					調査せず	
集計重量 (流木・灌木、 海藻を除く)					調査せず	

凡例

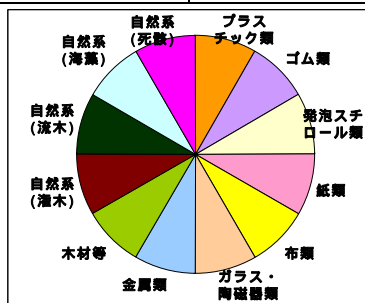


図 1.2-5 重量比率(地点3)

	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	合計(第2~5回)
集計容量 (全量)	 408.5L/100m2	 16.3L/100m2	 752.0L/100m2	 28.4L/100m2	調査せず	 301.3L/100m2
集計容量 (海藻を除く)	 383.7L/100m2	 16.3L/100m2	 751.2L/100m2	 28.4L/100m2	調査せず	 297.3L/100m2
集計容量 (流木・灌木、 海藻を除く)	 93.5L/100m2	 2.0L/100m2	 151.2L/100m2	 5.4L/100m2	調査せず	 63.0L/100m2

凡例

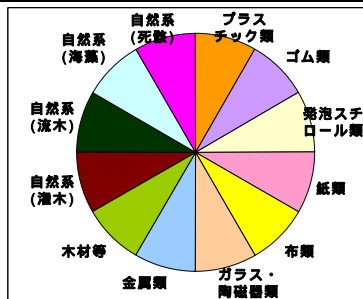


図 1.2-6 容量比率 (地点3)

#### (4) 地点 4

地点 4 の調査時期別の枠内重量比率および容量比率を図 1.2-7、図 1.2-8 に示す。

全量についてみると、調査時期別の漂着ゴミの重量及び容量はそれぞれ、0.9kg/100 m<sup>2</sup> (2008 年 2 月)~103.4 kg/100 m<sup>2</sup>(2007 年 12 月) 2.9L/100 m<sup>2</sup>(2008 年 2 月)~764.5L/100 m<sup>2</sup> (2008 年 5 月) の範囲であった。

各調査時期で重量、容量ともに自然系(灌木)の比率が最も高く、それぞれ 38% (2008 年 2 月)~84% (2008 年 8 月)、50% (2007 年 12 月)~87% (2008 年 8 月) の範囲であった。それ以外では自然系(流木)が 2008 年 12 月に多い以外は、人工物のプラスチック類、ガラス・陶磁器類、金属類が比較的多く、人工物のみで見た場合の枠内重量比率および容量比率の範囲は、プラスチック類では重量比率が 27% (2008 年 2 月)~72% (2008 年 8 月)、容量比率が 29% (2008 年 2 月)~84% (2007 年 12 月)、ガラス・陶磁器類では重量比率が 8% (2008 年 8 月)~18% (2008 年 5 月)、容量比率が 1% (2007 年 12 月)~15% (2008 年 8 月)、金属類では重量比率が 0% (2008 年 2 月)~15% (2008 年 8 月)、容積比率が 0% (2008 年 2 月)~11% (2008 年 8 月) であった。

また、ある時期に多かったものとしては、2007 年 12 月のゴム類(重量比率 16%、容量比率 5%)、2008 年 2 月の布類(重量比率 52%、容量比率 61%)、2008 年 5 月のその他の人工物(重量比率 26%、容量比率 36%)があった。



	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	合計(第2~5回)
集計重量 (全量)					調査せず	
集計重量 (海藻を除く)					調査せず	
集計重量 (流木・灌木、 海藻を除く)					調査せず	

凡例

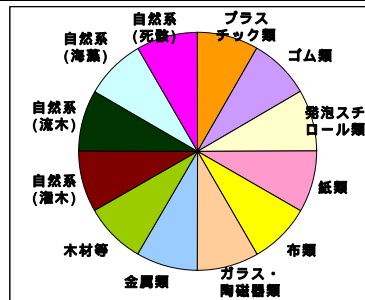


図 1.2-7 重量比率(地点4)

	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	合計(第2~5回)
集計容量 (全量)					調査せず	
集計容量 (海藻を除く)					調査せず	
集計容量 (流木・灌木、海藻を除く)					調査せず	

凡例

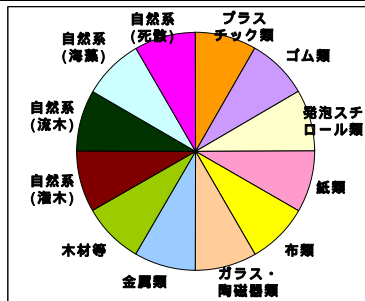


図 1.2-8 容量比率 (地点 4)

(5) 地点 5

地点 5 の調査時期別の枠内重量比率および容量比率を図 1.2-9、図 1.2-10 に示す。

全量についてみると、調査時期別の漂着ゴミの重量及び容量はそれぞれ、4.4kg/100 m<sup>2</sup> (2008 年 2 月)~235.5 kg/100 m<sup>2</sup>(2008 年 8 月)、16.1L/100 m<sup>2</sup>(2008 年 2 月)~976.9L/100 m<sup>2</sup> (2008 年 8 月) の範囲であった。

第 2 回調査 (2007 年 12 月) で自然系 (流木) の重量が最も高くなっている (53%) 以外は、各調査時期で重量、容量ともに自然系 (灌木) の比率が最も高く、重量比率が 38% (2007 年 12 月) ~97% (2008 年 8 月)、容量比率が 57% (2007 年 12 月) ~94% (2008 年 8 月) の範囲であった。それ以外では自然系 (流木) が 2008 年 5 月に多い以外は、人工物のプラスチック類、その他の人工物、ガラス・陶磁器類 (重量比率のみ) が比較的多く、人工物のみで見た場合の枠内重量比率および容量比率の範囲は、プラスチック類では重量比率が 32% (2008 年 5 月) ~55% (2008 年 2 月)、容量比率が 54% (2008 年 5 月) ~79% (2007 年 12 月)、その他の人工物では重量比率が 3%(2008 年 8 月)~58%(2008 年 5 月)、容量比率が 2% (2008 年 8 月) ~39% (2008 年 5 月)、ガラス・陶磁器類の重量比率は 5% (2008 年 8 月) ~35% (2008 年 2 月) であった。

また、ある時期に多かったものとしては、2008 年 8 月の紙類 (重量比率 29%、容量比率 9%)、2008 年 2 月と 8 月の発砲スチロール類の容量比率 (それぞれ 17%と 11%) があつた。

	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	合計(第2~5回)
集計重量 (全量)	 194.7kg/100m2	 4.4kg/100m2	 185.8kg/100m2	 235.5kg/100m2	調査せず	 150.1kg/100m2
集計重量 (海藻を除く)	 194.4kg/100m2	 4.4kg/100m2	 185.2kg/100m2	 235.5kg/100m2	調査せず	 148.9kg/100m2
集計重量 (流木・灌木、 海藻を除く)	 16.1kg/100m2	 0.9kg/100m2	 29.4kg/100m2	 9.7kg/100m2	調査せず	 14.1kg/100m2

凡例

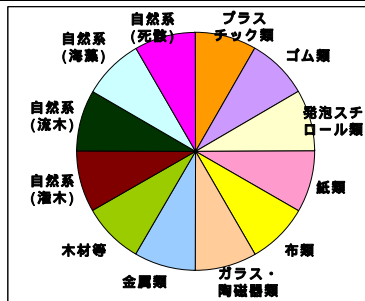
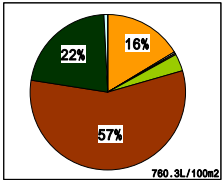
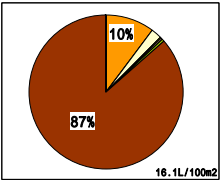
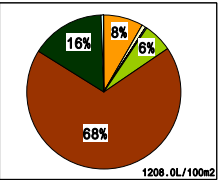
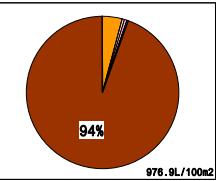
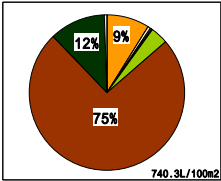
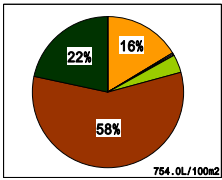
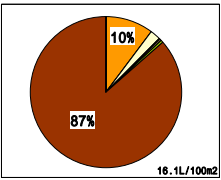
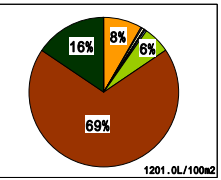
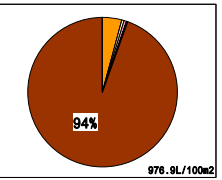
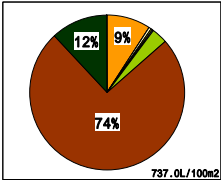
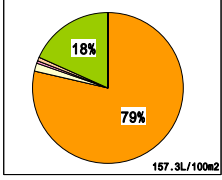
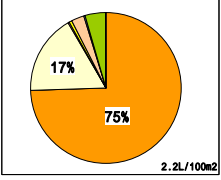
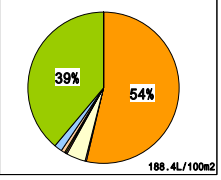
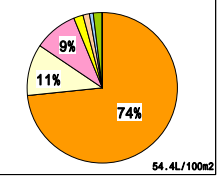
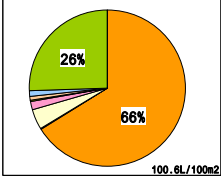


図 1.2-9 重量比率 (地点 5)

	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	合計(第2~5回)
集計容量 (全量)					調査せず	
集計容量 (海藻を除く)					調査せず	
集計容量 (流木・灌木、 海藻を除く)					調査せず	

凡例

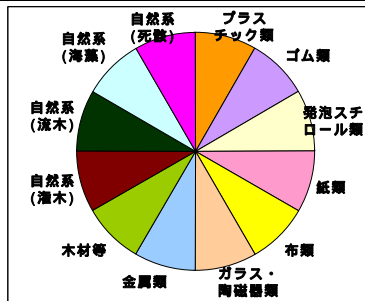


図 1.2-10 容量比率(地点5)

### 1.2.2 富岡海岸

第 2～6 回クリーンアップ調査の共通調査において回収された漂着ゴミを大分類ごとに集計し、全量、海藻を除いたもの、及び自然系（流木・灌木・海藻）を除いたもの、3通りのグラフを作成した。

各調査の実施年月は以下のとおりである。

第 1 回：2007 年 10 月

第 2 回：2007 年 12 月

第 3 回：2008 年 2 月

第 4 回：2008 年 5 月

第 5 回：2008 年 8 月

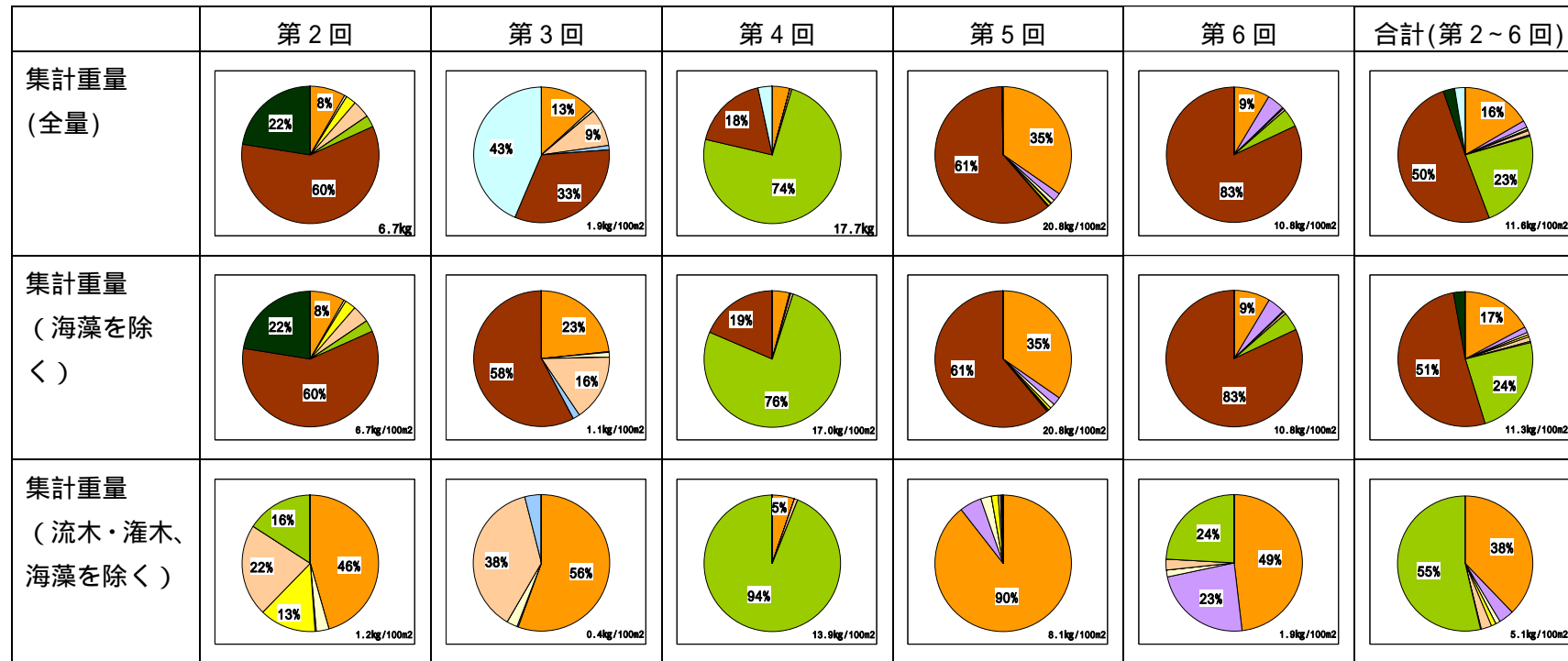
第 6 回：2008 年 10 月

#### (1) 地点 1

地点 1 の調査時期別の枠内重量比率および容量比率を図 1.2-11、図 1.2-12 に示す。

全量についてみると、調査時期別の漂着ゴミの重量及び容量はそれぞれ 1.9kg/100 m<sup>2</sup>（2008 年 2 月）～20.8 kg/100 m<sup>2</sup>（2008 年 8 月）、16.2L/100 m<sup>2</sup>（2008 年 2 月）～176.5L/100 m<sup>2</sup>（2008 年 5 月）の範囲であった。

第 3 回調査（2008 年 2 月）で海藻が重量比率、容量比率でそれぞれ 43%、63%と最大となり、第 4 回調査（2008 年 5 月）でその他の人工物が重量比率で 74%と最大となった以外は、各調査時期で重量、容量ともに自然系（灌木）の比率が最も高く、それぞれ 18%（2008 年 5 月）～83%（2008 年 8 月）、29%（2008 年 2 月）～93%（2007 年 12 月）の範囲であった。それ以外では、自然系（流木）が第 2 回調査（2008 年 12 月）に多い以外は人工物のプラスチック類、その他の人工物が比較的多く、人工物のみで見た場合の枠内重量比率および容量比率の範囲は、プラスチック類では重量比率が 5%（2008 年 5 月）～90%（2008 年 8 月）、容量比率が 26%（2008 年 5 月）～76%（2008 年 2 月）、その他の人工物では重量比率が 0%（2008 年 2 月）～74%（2008 年 5 月）、容量比率が 0%（2008 年 2 月）～32%（2008 年 5 月）であった。



凡例

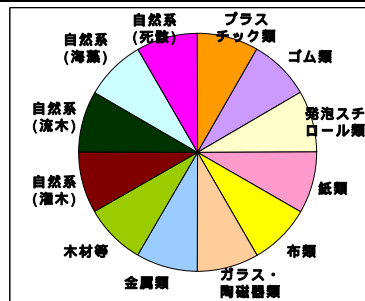
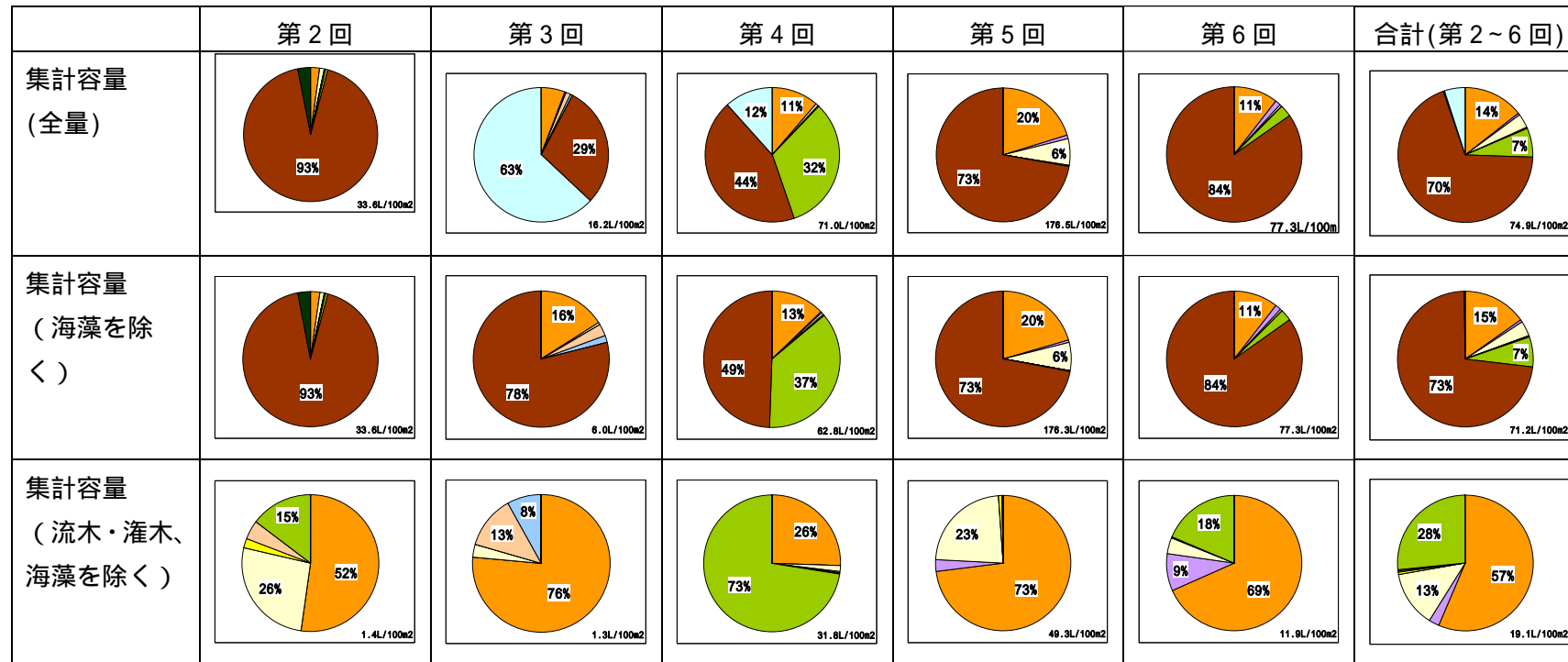


図 1.2-11 重量比率 (地点1)



凡例

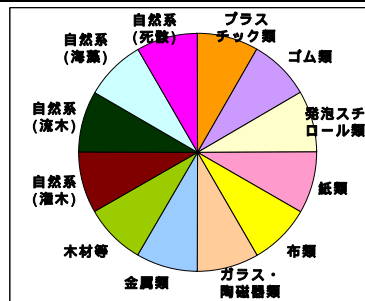


図 1.2-12 容量比率 (地点1)



## (2) 地点 2

地点 2 の調査時期別の枠内重量比率および容量比率を図 1.2-13、図 1.2-14 に示す。

全量についてみると、調査時期別の漂着ゴミの重量及び容量はそれぞれ 4.6kg/100 m<sup>2</sup> (2008 年 2 月) ~ 86.8 kg/100 m<sup>2</sup> (2008 年 8 月)、35.8L/100 m<sup>2</sup> (2008 年 2 月) ~ 543.9L/100 m<sup>2</sup> (2008 年 8 月) の範囲であった。

各調査時期で重量、容量ともに自然系(灌木)の比率が最も高く、それぞれ 56% (2008 年 5 月) ~ 82% (2008 年 10 月)、64% (2008 年 5 月) ~ 82% (2007 年 12 月) の範囲であった。それ以外では、プラスチック類、その他の人工物、ガラス・陶磁器類が比較的多く、人工物のみで見た場合の枠内重量比率および容量比率の範囲は、プラスチック類では重量比率が 40% (2008 年 8 月) ~ 69% (2008 年 10 月)、容量比率が 6% (2008 年 2 月) ~ 14% (2008 年 5 月)、その他の人工物では重量比率が 1% (2008 年 2 月) ~ 27% (2008 年 5 月)、容量比率が 1% (2008 年 2 月) ~ 36% (2008 年 5 月)、ガラス・陶磁器類では重量比率 13% (2008 年 8 月) ~ 54% (2008 年 2 月)、容量比率が 2% (2008 年 8 月) ~ 18% (2008 年 2 月) であった。

また、ある時期に多かったものとしては、第 5 回 (2008 年 8 月) の発泡スチロール類の容量が 28% と多かった。

	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	合計(第2~6回)
集計重量 (全量)						
集計重量 (海藻を除く)						
集計重量 (流木・灌木、 海藻を除く)						

凡例

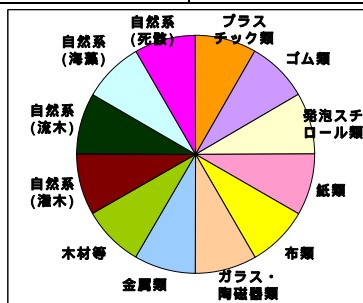
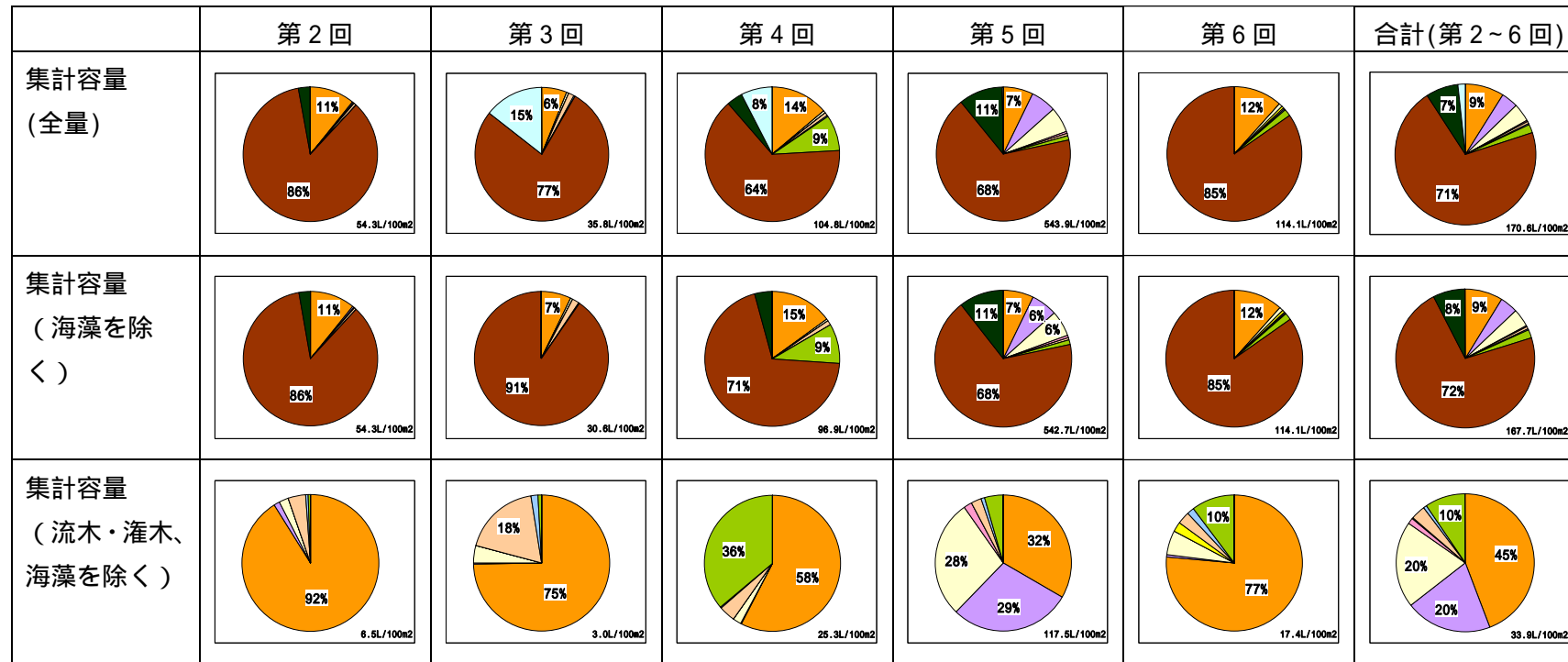


図 1.2-13 重量比率(地点2)



凡例

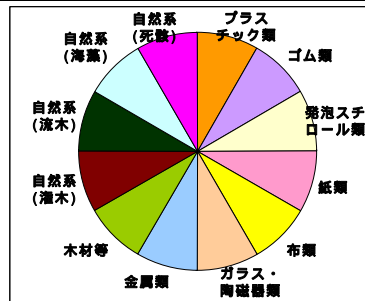


図 1.2-14 容量比率 (地点2)

### (3) 地点 3

地点 3 の調査時期別の枠内重量比率および容量比率を図 1.2-15、図 1.2-16 に示す。

全量についてみると、調査時期別の漂着ゴミの重量及び容量はそれぞれ 2.5kg/100 m<sup>2</sup> (2008 年 2 月) ~ 67.2 kg/100 m<sup>2</sup> (2008 年 8 月)、22.0L/100 m<sup>2</sup> (2008 年 2 月) ~ 358.7L/100 m<sup>2</sup> (2008 年 8 月) の範囲であった。

各調査時期で重量、容量ともに自然系(灌木)の比率が最も高く、それぞれ 74% (2008 年 10 月) ~ 90% (2008 年 5 月)、77% (2008 年 10 月) ~ 95% (2008 年 5 月) の範囲であった。それ以外では、人工物のプラスチック類、その他の人工物、ガラス・陶磁器類(重量のみ)が比較的多く、人工物のみで見た場合の枠内重量比率および容量比率の範囲は、プラスチック類では重量比率が 21% (2008 年 8 月) ~ 60% (2007 年 12 月)、容量比率が 35% (2008 年 8 月) ~ 68% (2007 年 12 月)、その他の人工物では重量比率が 0% (2008 年 5 月) ~ 63% (2008 年 8 月)、容量比率が 0% (2008 年 5 月) ~ 32% (2008 年 8 月)、ガラス・陶磁器類の重量比率は 3% (2008 年 8 月) ~ 47% (2008 年 5 月) であった。

	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	合計(第2~6回)
集計重量 (全量)						
集計重量 (海藻を除く)						
集計重量 (流木・灌木、 海藻を除く)						

凡例

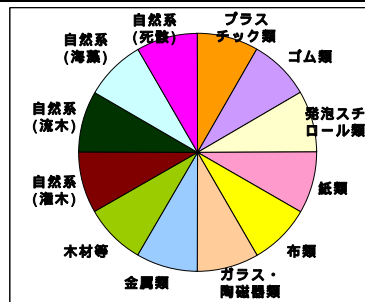
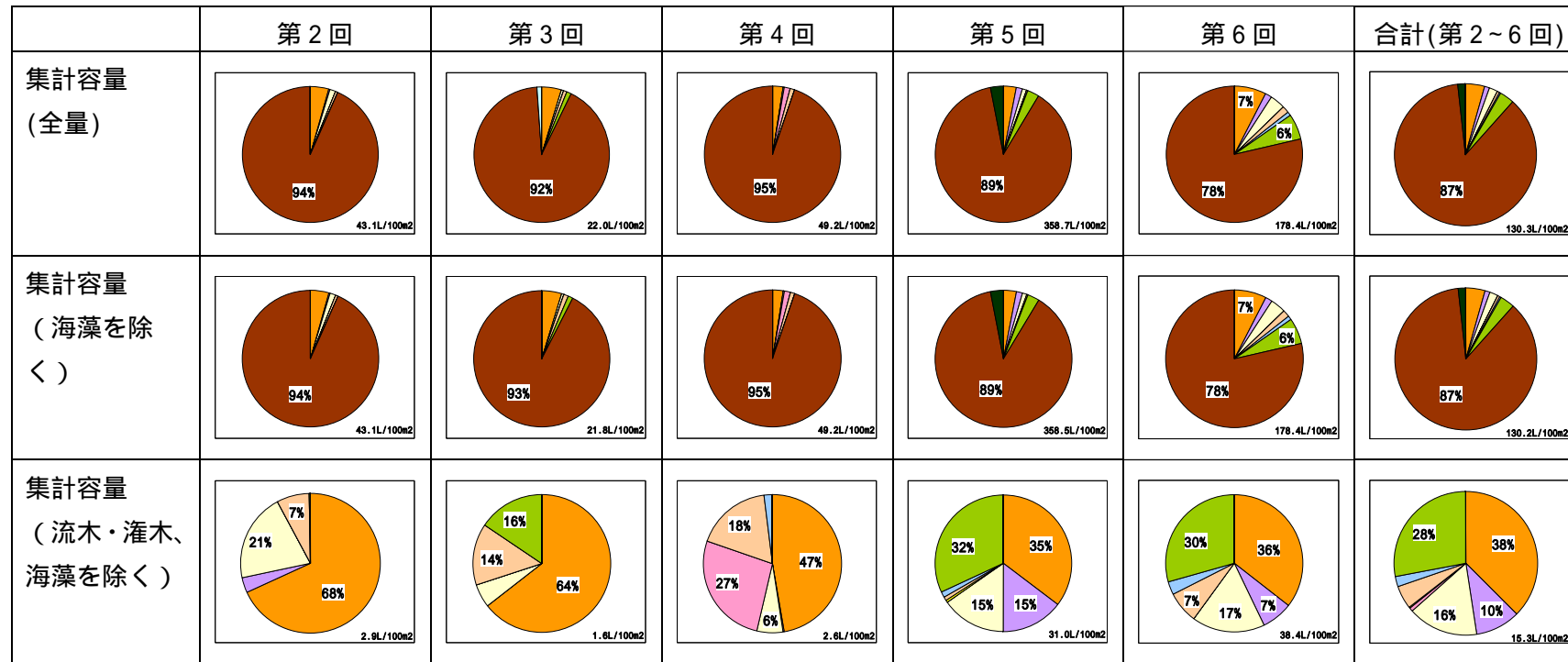


図 1.2-15 重量比率 (地点3)



凡例

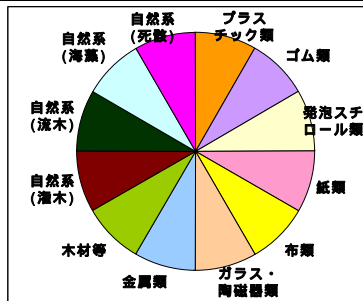


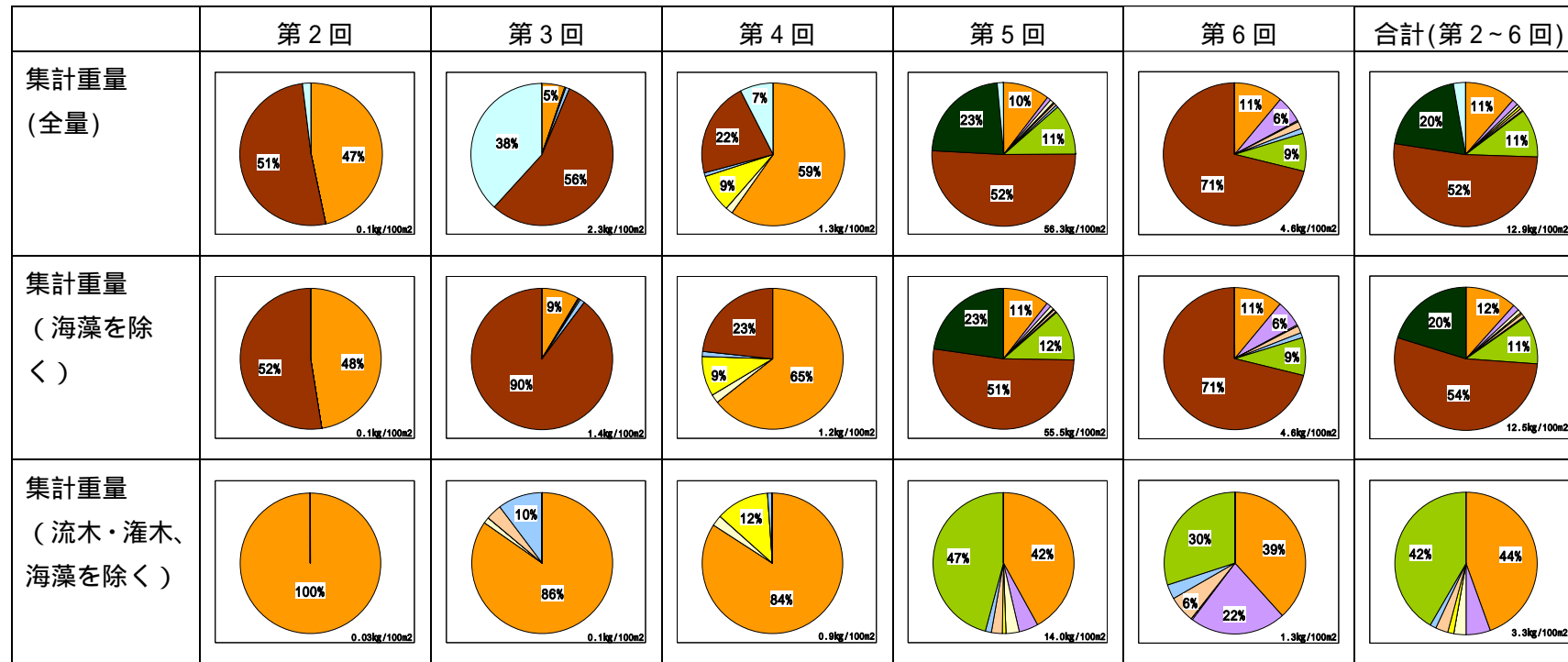
図 1.2-16 容量比率 (地点3)

#### (4) 地点 4

地点 4 の調査時期別の枠内重量比率および容量比率を図 1.2-17、図 1.2-18 に示す。

全量についてみると、調査時期別の漂着ゴミの重量及び容量はそれぞれ 0.1kg/100 m<sup>2</sup> (2007 年 12 月)~56.3 kg/100 m<sup>2</sup>(2008 年 8 月) 、 0.1L/100 m<sup>2</sup>(2007 年 12 月)~424.3L/100 m<sup>2</sup> (2008 年 8 月) の範囲であった。

第 4 回調査 (2008 年 5 月) でプラスチック類が最大 (重量比率 59%、容量比率 64%) になっている以外は、各調査時期で重量、容量ともに自然系 (灌木) の比率が最も高く、それぞれ 22% (2008 年 5 月) ~71% (2008 年 10 月) 、 18% (2008 年 5 月) ~75% (2008 年 10 月) の範囲であった。それ以外では自然系 (流木) が 2008 年 8 月に多く (重量比率 23%、容量比率 17%) 、海藻が 2008 年 2 月 (重量比率 38%、容量比率 19%) と 5 月 (重量比率 7%、容量比率 12%) に多かった。人工物ではプラスチック類が多く、人工物のみで見た場合の枠内重量比率および容量比率の範囲は、プラスチック類では重量比率が 39% (2008 年 10 月) ~100% (2007 年 12 月) 、容量比率が 8% (2008 年 2 月) ~64% (2008 年 5 月) であった。



凡例

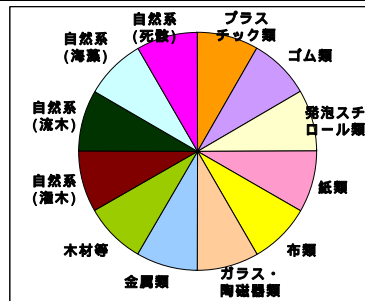
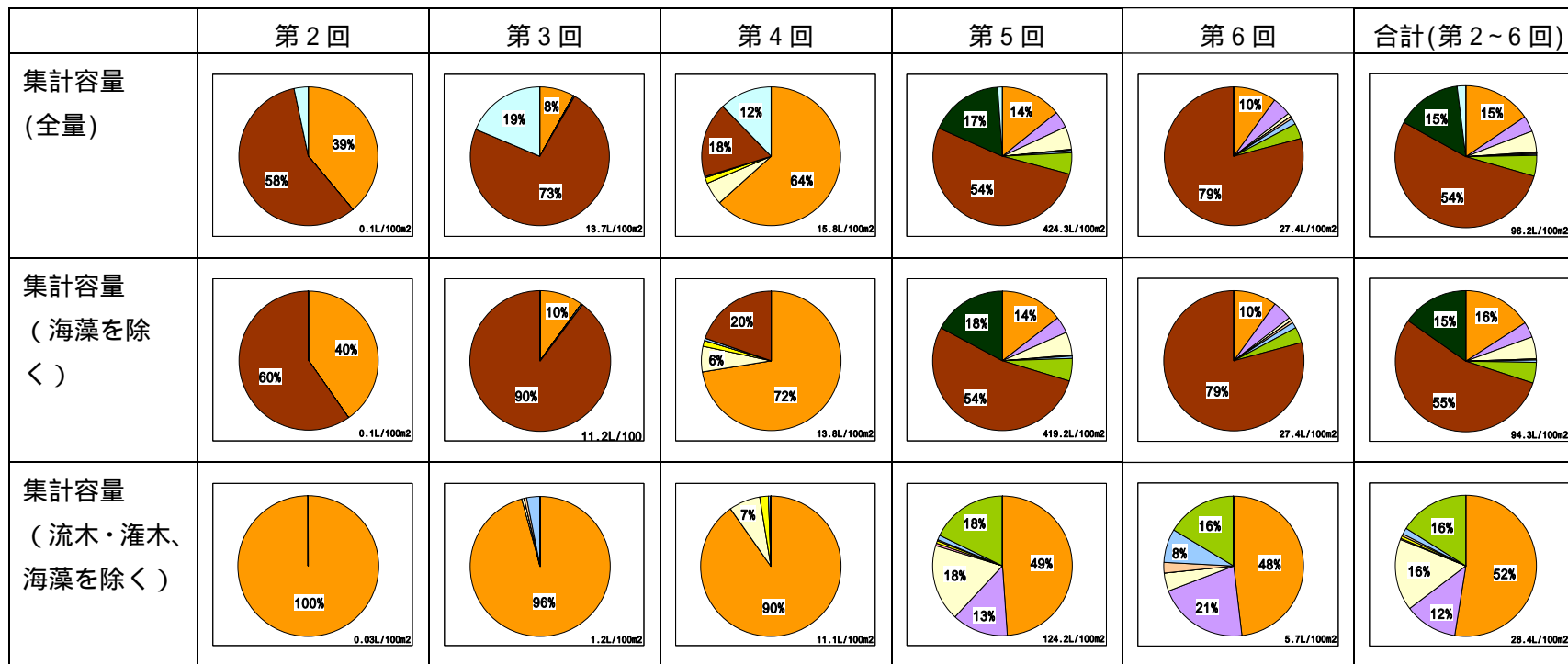


図 1.2-17 重量比率(地点4)





凡例

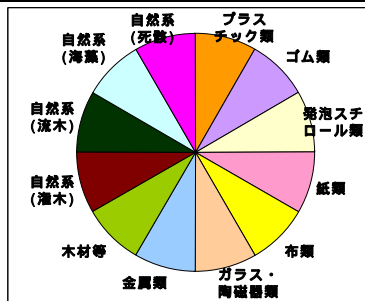


図 1.2-18 容量比率 (地点 4)

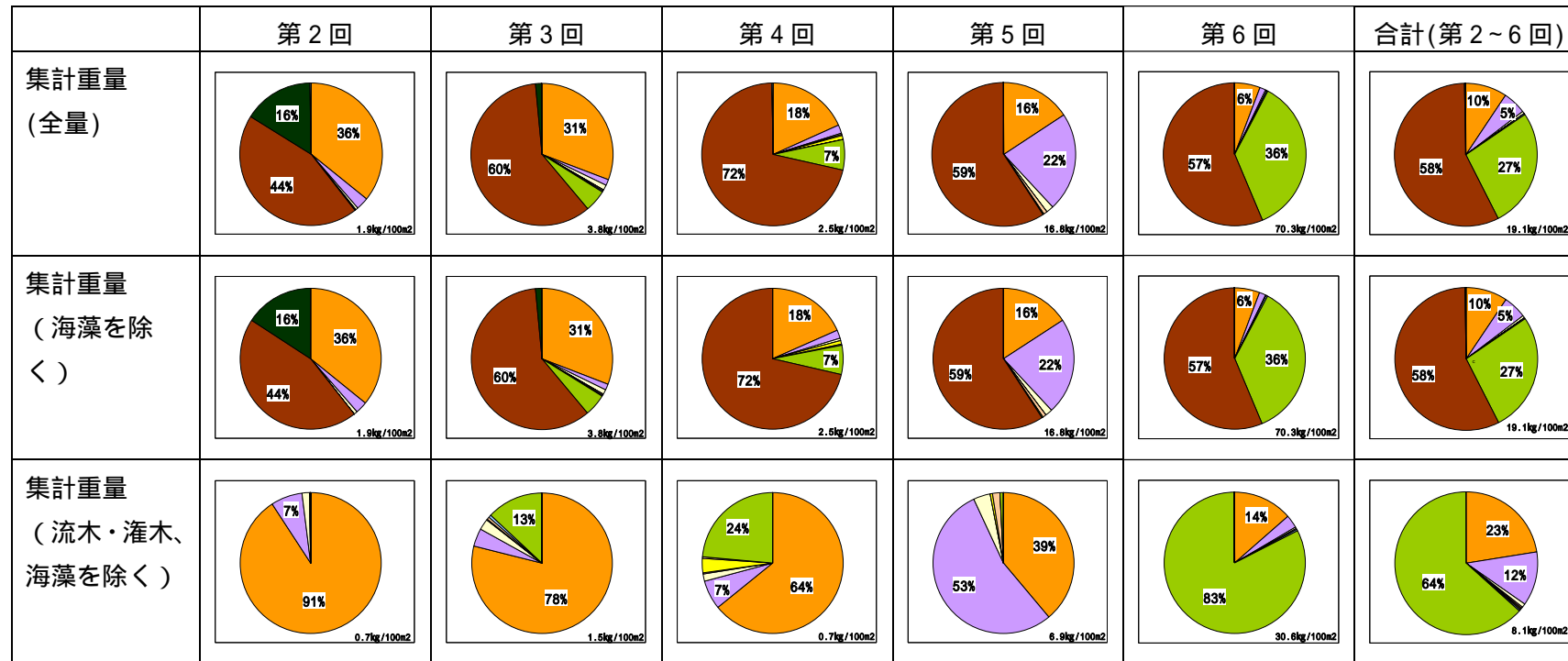
(5) 地点 5

地点 5 の調査時期別の枠内重量比率および容量比率を図 1.2-19、図 1.2-20 に示す。

全量についてみると、調査時期別の漂着ゴミの重量及び容量はそれぞれ 1.9kg/100 m<sup>2</sup> (2007 年 12 月)~70.3 kg/100 m<sup>2</sup>(2008 年 10 月)、11.2L/100 m<sup>2</sup>(2007 年 12 月)~242.6L/100 m<sup>2</sup> (2008 年 10 月) の範囲であった。

各調査時期で重量、容量ともに自然系(灌木)の比率が最も高く、それぞれ 44%(2007 年 12 月)~72%(2008 年 5 月)、50%(2008 年 8 月)~69%(2008 年 5 月) の範囲であった。それ以外では自然系(流木)が第 2 回調査(2007 年 12 月)で多い(重量比率 16%、容量比率 22%) 以外は、人工物のプラスチック類、その他の人工物が比較的多く、人工物のみで見た場合の枠内重量比率および容量比率の範囲は、プラスチック類では重量比率が 14%(2008 年 10 月)~81%(2007 年 12 月)、容量比率が 36%(2008 年 10 月)~98%(2007 年 12 月)、その他の人工物では重量比率が 0%(2007 年 12 月)~83%(2008 年 10 月)、容量比率が 0%(2007 年 12 月)~48%(2008 年 10 月)であった。

また、ある時期に多かったものとしては、2008 年 8 月のゴム類(全量での重量比率 22%、容量比率 18%)があった。



凡例

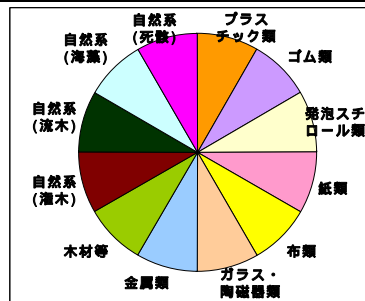
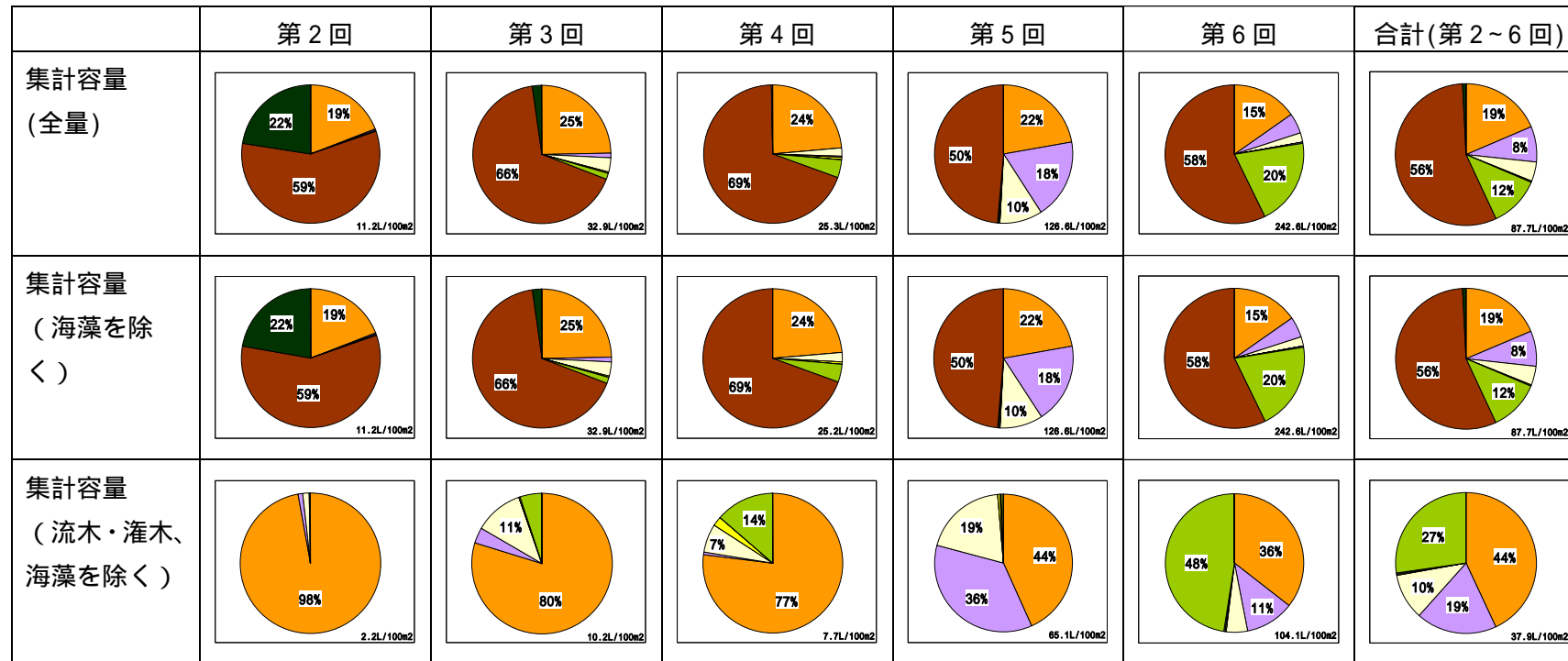


図 1.2-19 重量比率(地点5)



凡例

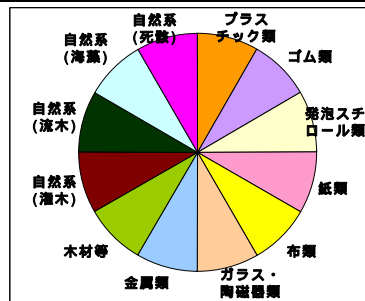


図 1.2-20 容量比率 (地点5)

(6) 地点 6

地点 6 の調査時期別の枠内重量比率および容量比率を図 1.2-21、図 1.2-22 に示す。

全量についてみると、調査時期別の漂着ゴミの重量及び容量はそれぞれ 0.1kg/100 m<sup>2</sup> (2007 年 12 月)及び 0.4 kg/100 m<sup>2</sup>(2008 年 2 月)、0.6L/100 m<sup>2</sup>(2007 年 12 月)及び 4.9L/100 m<sup>2</sup> (2008 年 8 月)であり、各調査時期で重量、容量ともに自然系(灌木)の比率が最も高く、重量比率が 67% (2007 年 12 月)及び 66% (2008 年 2 月)、容量比率が 88% (2007 年 12 月) ~ 56% (2008 年 2 月)であった。それ以外では 2007 年 12 月のプラスチック類(重量比率 20%、容量比率 7%)、2008 年 2 月の海藻(重量比率 25%、容量比率 43%)が多かった。

	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	合計(第2~3回)
集計重量 (全量)			調査対象外	調査対象外	調査対象外	
集計重量 (海藻を除く)			調査対象外	調査対象外	調査対象外	
集計重量 (流木・灌木、 海藻を除く)			調査対象外	調査対象外	調査対象外	

凡例

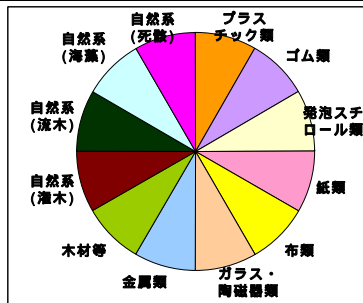


図 1.2-21 重量比率 (地点6)

	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	合計(第2~6回)
集計容量 (全量)			調査対象外	調査対象外	調査対象外	
集計容量 (海藻を除く)			調査対象外	調査対象外	調査対象外	
集計容量 (流木・灌木、 海藻を除く)			調査対象外	調査対象外	調査対象外	

凡例

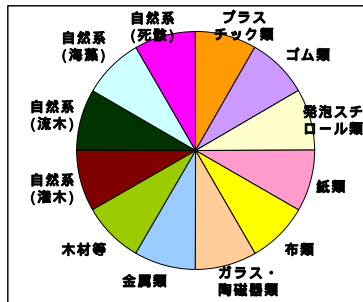


図 1.2-22 容量比率 (地点6)

